

2021 推奨施工法

SOLIDO typeF coffee
typeF shirasu



本資料のご使用に当たって

- 本資料は、SOLIDO typeF（内装材）を安全に正しくお使い頂くための情報を記載しています。
- SOLIDO typeFの工事に当たり、設計・施工の参考にしてください。
- 施工方法や納まりの詳細につきましては、元請様や工事店様のご判断、責任のもと、製品品質や施工品質が確保できるように方法を決定して頂きますようお願い致します。
- 本資料内の数値の単位は、記載なき場合は全て「mm」です。

SOLIDO typeFの本体、色合いについて

- 製品本体、色の保証はありません。
- 本製品は素材から出た自然な色合いの為、一枚一枚の色味が大きく異なります。色味の指定はできませんので、あらかじめご了承ください。また、色味による返品についてはご対応致しかねます。
- 年数が経過するにつれて、外観表面の白華（エフロレッセンス）部分が増減する等により、色味が変わる可能性があります。

目次

本資料のご使用に当たって	1
SOLIDO typeF の本体、色合いについて	1
1. 商品の選定	3
【1】商品仕様	3
【2】不燃材料の認定番号	4
【3】性能一覧	4
2. 施工仕様	5
【1】適用範囲	5
【2】推奨工法	5
3. 金具工法	6
【1】適用下地	6
【2】施工仕様	7
【3】使用部材	8
【4】施工工具	9
【5】施工手順	9
【6】横張り施工のポイント	10
【7】縦張り施工のポイント	16
4. 接着工法	22
【1】適用下地	22
【2】施工仕様	23
【3】使用部材	24
【4】施工工具	25
【5】施工手順	25
【6】横張り施工のポイント	26
【7】縦張り施工のポイント	34
5. 参考資料	43
【1】補修・仕上げ方法	43



※施工事例は、ウェブサイトでご覧頂けます。 <https://www.kmew.co.jp/shouhin/solido/category/>

1. 商品の選定

【1】商品仕様

< 1 > 本体

① SOLIDO typeF coffee

(単位: mm)

	10尺品 (品番: EA6511K)
形状・寸法	
働き寸法	455 × 3030
1枚当たりの重量	約28kg/枚
1枚当たりの㎡数	1.38㎡/枚
梱包入数	2枚/梱

(単位: mm)

	6尺品 (品番: EA6511K6)	3尺品 (品番: EA6511K3)
形状・寸法		
働き寸法	455 × 1820	455 × 910
1枚当たりの重量	約17kg/枚	約8.5kg/枚
1枚当たりの㎡数	0.83㎡/枚	0.41㎡/枚
梱包入数	2枚/梱	2枚/梱

② SOLIDO typeF shirasu

(単位: mm)

	10尺品 (品番: EA6621K)
形状・寸法	
働き寸法	455 × 3030
1枚当たりの重量	約28kg/枚
1枚当たりの㎡数	1.38㎡/枚
梱包入数	2枚/梱

(単位: mm)

	6尺品 (品番: EA6621K6)	3尺品 (品番: EA6621K3)
形状・寸法		
働き寸法	455 × 1820	455 × 910
1枚当たりの重量	約17kg/枚	約8.5kg/枚
1枚当たりの㎡数	0.83㎡/枚	0.41㎡/枚
梱包入数	2枚/梱	2枚/梱

1. 商品の選定

【2】不燃材料の認定番号

●ケイミューが取得しているSOLIDO typeFの不燃材料認定は以下の通りです。

認定区分	認定番号	一般名称
不燃材料	NM-3812	窯業系内装材

【3】性能一覧

<1>物性一覧表

●SOLIDO typeFの物性値は下表の通りです。

項目	物性値	試験方法
比重	1.3	105℃ 24hr 乾燥（弊社測定値）
曲げ破壊荷重	785N以上	JIS A 5422
耐衝撃性	合格	JIS A 5422

※JIS A 5422に準じて測定していますが、SOLIDO typeFはJIS商品ではありません。

<2>VOC放散速度について

- 建築基準法によるシックハウス対策規制以後、ホルムアルデヒドだけでなく、それ以外のVOC(揮発性有機化合物)についても、室内濃度の測定方法や基準の設定が要求され、業界の自主的な取組みとして「住宅部品VOC表示ガイドライン」が制定されています。
- 本製品は「住宅部品VOC表示ガイドライン」の対象外ですが、VOC放散速度の確認をしています。
- VOC放散速度の確認結果は下表の通りです。

【外部機関測定結果及びVOC放散速度基準値】（外部機関：パナソニック㈱プロダクト解析センター）

	VOC放散速度（単位：μg/m ³ h）					
	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	クロルピリホス
SOLIDO type F coffee	1	4	0.2未満	0.2未満	0.2未満	検出できず
SOLIDO type F shirasu	0.2	0.2未満	0.2未満	0.2未満	0.2未満	検出できず
基準値（上限値）	5	38	29	550	32	—

※「建材からのVOC放散速度基準」に規定されている試験方法である「JIS A 1901」（小型チャンバー法）の試験開始後7日目の測定結果です。
 ※試験条件は、試験負荷率2.2m³/m²、換気回数0.5回/時間、温度28℃、湿度50%です。

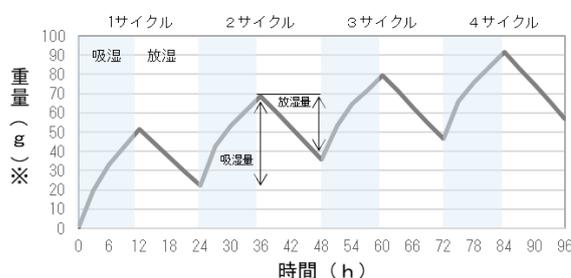
<3>調湿性能について

- SOLIDO typeF shirasu は、（一社）日本建材・住宅設備産業協会の調湿建材登録・表示制度の適合商品です。
- ※SOLIDO typeF coffee は、下表の性能を満たしていません。

項目	3時間後	6時間後	12時間後
吸湿量 (g/m ²)	15以上	20以上	29以上
放湿量 (g/m ²)	—	—	20以上 4サイクル確認

※試験方法 JIS A 1470 - 1:2014（建築材料の吸放湿性試験方法—第1部：湿度応答法）および付属書JA（規定）
 相対湿度50%→75%→50%周期を4サイクル繰り返す、温度23℃

【試験結果】—— サンプル重量の変化による吸放湿量の測定 ——



※1 m²当たりの重量変化分です。
 ※左記結果は試験値であり、使用環境によって異なります。

2. 施工仕様

【1】適用範囲

< 1 > 適用地域

- 日本国内（全国）に適用します。

< 2 > 適用部位

- 垂直かつ平面である屋内壁にご使用ください。それ以外のご使用の場合、当社で安全性等の確認・検証ができておりませんので責任を負いかねます。
- 曲面へ本製品を曲げての施工は、割れや脱落の原因となるので避けてください。
- 下記の場所での使用については、変形等のおそれがあるため推奨していません。
 - ・水を使用したり、湿気が多くなる場所（例：トイレ、浴室、洗面）
 - ・火気等を使用し、高温になる場所（例：暖炉、ガスコンロ周辺等）
- 防耐火規制等の法規制について、採用される認定や使用される部位の規制等を確認して頂き、使用可否判断を行ってください。
- 留付け下地の不陸は2mm以下になるよう調整してください。
- 層間変形角1/120以下の箇所に使用してください。

【2】推奨工法

- 推奨工法として、「**金具工法**」と「**接着工法**」があります。
- 推奨工法以外の工法で施工する場合は、品質面や安全面等に十分配慮してください。
- 釘（ビス）留めで施工をする場合は、「KMEW外壁材設計施工マニュアル」最新版の釘留めの下地・留付け仕様を参考に施工してください。ビス留めの場合は釘をビスに読み替えてください。

○：施工可能 ×：施工不可

施工仕様		木下地	鉄骨下地	LGS下地	
金具工法	15mm金具	縦張り	○	○	○※3
		横張り	○※2	○※2	○※2
	5mm金具	縦張り	○	○	○※3
		横張り	○※2	○※2	○※2
	2mm金具	縦張り	×	×	×
		横張り	○	×	×
接着工法 ※1	下地面材あり	縦張り	○	○	○※3
		横張り	○	○	○
	下地面材なし	縦張り	○	○	○※3
		横張り	○	○	○

- ※1 接着工法の適用高さは**3.2m以下**です。3.2mを超える場合は、金具工法、または釘（ビス）留めでの施工となります。
- ※2 施工高さが16mを超えて、さらに風圧力が発生する箇所で使用する際は、ケイミュー補強工法で施工してください。
- ※3 **金具取付け位置にLGS下地が必要です。SOLIDO typrFの割付けを考慮してLGS下地の設置位置を決めてください。**

3. 金具工法

【1】適用下地

- 木下地、鉄骨下地、LGS下地に使用して頂けます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、本資料を参考に、ご採用者様にて施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様は下表の通りです。

①木下地

		SOLIDO typeFの張り方	
		横張り	縦張り
下地材 (柱・間柱・縦枠)	間隔	500以下	
胴縁	サイズ	—	一般部：18×45以上 目地部：18×90以上
	間隔	—	500以下
	取付方向	—	横方向
	材質	—	よく乾燥して平坦 (ねじれ、反りのない)な木材

②鉄骨下地

			SOLIDO typeFの張り方	
			横張り	縦張り
下地材 (C形鋼)	下地方向		縦方向	横方向
	一般部	サイズ	C形鋼 C-75×45×15以上	
		厚さ	1.6~2.3	
		間隔	606以下	
	目地部	サイズ	C形鋼 C-75×45×15以上ダブル または角形鋼口-100×100	C形鋼 C-75×45×15以上・3本
厚さ		1.6~2.3		
※ 木胴縁	取付方向		縦方向	横方向
	サイズ		一般部：30×45以上 目地部：30×90以上	
	間隔		500以下	

※下地材（C形鋼）に木胴縁を取付ける場合の胴縁仕様です。木胴縁は下地材（C形鋼）と木胴縁を直行する形で施工します。

③LGS下地

		SOLIDO typeFの張り方	
		横張り	縦張り
下地材 (LGS)	サイズ	一般部：65形以上 目地部：65形以上ダブル	65形以上
	間隔	606以下	金具位置に合わせる
	厚さ	一般普及材以上	

3. 金具工法

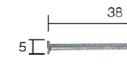
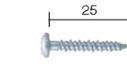
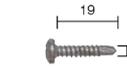
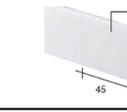
【2】施工仕様

金具	留め金具	留め金具 (5mm) 平板用、留め金具 (2mm) 平板用 (横張り・木下地のみ)、 通気留め金具 (15mm) 平板用	
	スターター	スターター、ロングスターター	
	留付け間隔	木下地 : 500mm以下 LGS下地、鉄骨下地 : 606mm以下	
直留め部	端打ち寸法	<p>木下地 : ステンレスリング釘 A=20~30mm B=40~50mm LGS・鉄骨下地 : ステンレスビス A=30~40mm B=50~60mm</p>	
本体加工	最小加工幅	<p>凹型加工 : 板幅の1/2以上 L型加工 : 100mm以上</p> <p>※1/2未満となる場合は分離して突付け ※100未満となる場合は分離して突付け</p> <p>※上記規定寸法未満となる場合は、分離して突付け</p>	
各部納まり ※参考図は 全て横張りの 場合	目地部	横目地	横張り : 合いじゃくり接合 縦張り : ロングスターター施工 ※スターター受け部の厚み分 (4mm程度) すき間があきます
		縦目地	横張り : 突付け ※横揺れによる本体木口面の欠け防止のため、10m毎に合計15mm以上の クリアランスをとること
	縦張り : 合いじゃくり接合		
	出入隅部	突付け ※横張りの場合、出隅部では勝ち側の木口に合いじゃくり部分が露出します (補修する場合はP43参照)	
	床取合い部	<p>巾木納め (推奨) ※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の 影響を受けないよう床面より1~2mm程度のすき間をあけてください (縦張りの場合は、スターター受け部の厚み (4mm程度) 分、更にすき間が あきます)</p>	
	天井等 他部材取合い部	突付け	
その他	補修	※SOLIDO typeFは、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料 (補修塗料) は設定していません。補修が必要な場合は、市販の補修剤等を 使用して頂きますようお願いいたします。 P43に市販補修剤使用の一例を示します。	
	付帯物	下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可	

3. 金具工法

【3】使用部材

●留め金具（5mm）の場合

品名		品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)		
金具	留め金具（5mm）用平板用 (縦張り・横張り共通)	B1005	 t=0.8mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋		
	ロングスターター (横張り用)	B101052	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱		
	ロングスターター (縦張り用)	B10057	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛AI-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 (専用ビス付) ※1		
釘・ビス	留め金具用	専用釘・ビス	留め金具用リング釘38 (木下地用) ※横張り用	RM89S0		ステンレス	150本/箱
			留め金具用ビス25 (木下地用)	RY8830		ステンレス	500本/箱
			留め金具用ビス19 (鉄骨下地用) ※1(A)	RY8840		ステンレス	500本/箱
	直留め用	推奨ビス	SUS 410 MBシートテクス シンW 4.5×19 SG (LGS下地用) ※1(B)		問合せ先：日本パワーファスニング（株）大阪営業所 TEL：072-726-1501 品コード：700061		
			リング釘75 (木下地用) ※近似色釘	B8775W1559		ステンレス	36本/袋
			直留め用リング釘45 (木下地用) ※淡色系の着色釘 ※2	B8745R400		ステンレス	40本/袋
			直留め用ビス50 (鉄骨下地用) ※2	B88501		ステンレス	200本/袋
	スペーサー	推奨ビス	軽天タッピング フレキ 3.5×32 (LGS下地用)	問合せ先：若井産業（株） TEL：06-6783-4101 品コード：71332SF			
			スペーサー-5	RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱

※1 ロングスターターに付属している専用ビスは木下地用です。鉄骨下地またはLGS下地の場合は、以下のビスを別途ご用意ください。

- ・鉄骨下地用：(A) 留め金具用ビス19
- ・LGS下地用：(B) SUS410MB シートテクス シンW4.5×19SG

※2 SOLIDO typeFの近似色ではありません。

釘（ビス）頭の仕上げについては、市販の補修剤の使用等をご検討頂きますようお願いいたします。

(市販の補修剤を使用した補修・仕上げ方法をP43～50に紹介していますのでご参考ください。)

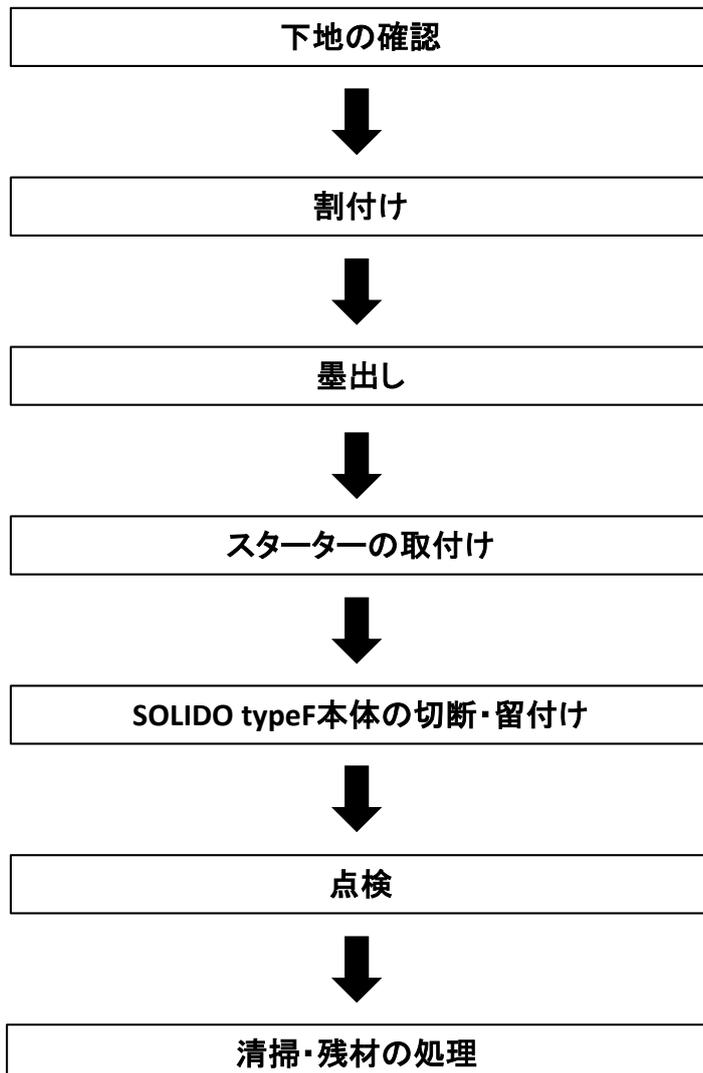
3. 金具工法

【4】施工工具

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ100)	B491	 外径: 100mm 内径: 20mm 刃厚: 1.5mm 刃数: 10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ125)	B492	 外径: 125mm 内径: 20mm 刃厚: 1.5mm 刃数: 10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

【5】施工手順



※一枚一枚の色味が大きく異なりますが、製造上、色味の近い商品が偏って納品される場合があります。

※施工の前に、仮並べをして配置を検討してから施工することをおすすめします。

色味を確認しなかった例



色味を確認して配置を検討した例

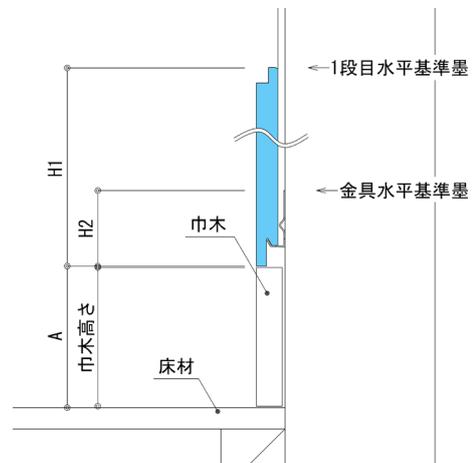
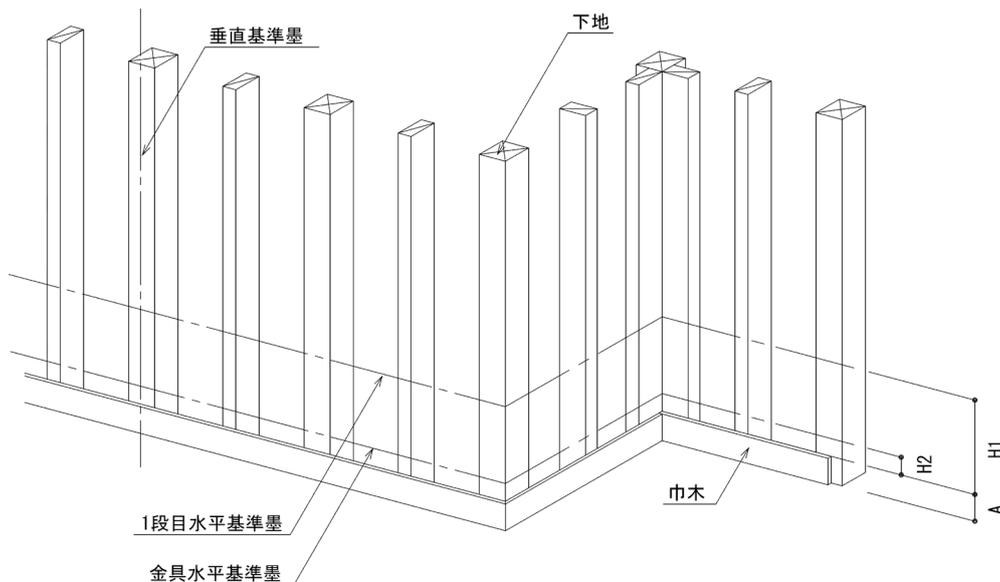


3. 金具工法

【6】横張り施工のポイント

<1> 墨出し

- 役物、本体の水平基準を出すため、本体一段目の水平基準墨と金具用水平基準墨をうちます。
- 本体一段目の墨出し位置H1、留め金具上端の墨出し位置H2は、下表の通りです。（金具の種類によりH2寸法は異なります。）
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。
- 巾木ありの場合：巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
- 巾木なしの場合：床から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）



	A
巾木あり	巾木高さ+1~2mm程度
巾木なし	1~2mm程度

墨出し位置		1段目水平基準墨 H1	金具水平基準墨位置 H2
留め金具 (5mm)	スターター	466mm	44mm
	ロングスターター		54mm
通気留め金具 (15mm)	スターター		47mm
	ロングスターター		44mm
留め金具 (2mm) (木下地専用)	スターター		45mm
	ロングスターター		54mm
スターターなし (直留め)			—

3. 金具工法

【6】横張り施工のポイント

<2>横張り（5mm金具留め施工の場合）－張り方のポイント－

●本体は留め金具を使用して施工します。

	留め金具・スターター			ロングスターター		
	留付け仕様	留付け間隔	使用部位	留付け仕様	留付け間隔	使用部位
木下地	専用釘または専用ビス・1本留め	500以下（下地毎）	留め金具： 一般部 スターター： 張出し部	専用釘または専用ビス	500以下（下地毎）	張出し部
鉄骨下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス	606以下（下地毎）	
LGS下地	推奨ビス・1本留め	606以下（下地毎）		推奨ビス	606以下（下地毎）	

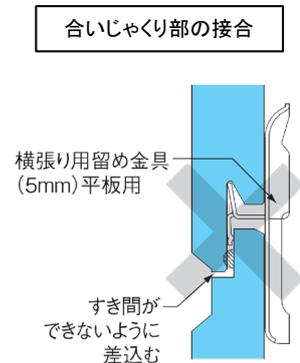
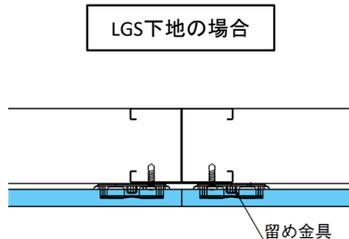
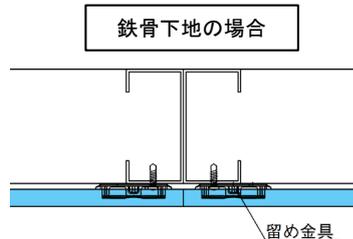
●天井取合い部や開口部上下等、合いじゃくり部分が切断され留め金具が施工できない箇所は、スペーサー5を入れ、端打ち寸法（P7参照）を確保し、先孔（φ2mm程度）をあけてから専用釘または専用ビス、推奨ビスで下地に固定します。

（鉄骨下地の専用ビスを使用する場合は先孔不要）

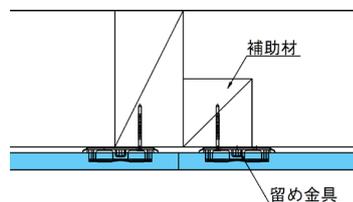
●留め金具には、複数の釘穴やビス穴があいています。部位に合わせて穴を選び、必要本数を留付けます。

●合いじゃくりの部分の接合は、すき間ができないように差込みます。

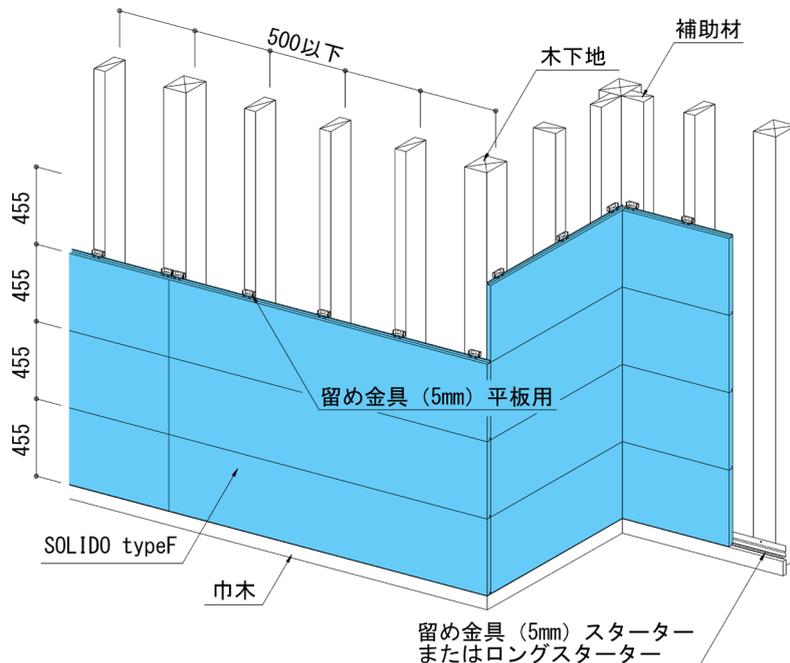
※縦目地部には縦目地部左右の金具の留付けができるように必ず下地を設けてください。
本体の端部付近に留め金具を留付けないと、本体の反りや変形の原因となります。



●木造で縦目地部が間柱位置にくる場合、下図のように補助材を使用し、金具の留付けができるようにしてください。（入隅等で、柱等の下地に金具の留付けができない場合も同様）



木下地の場合

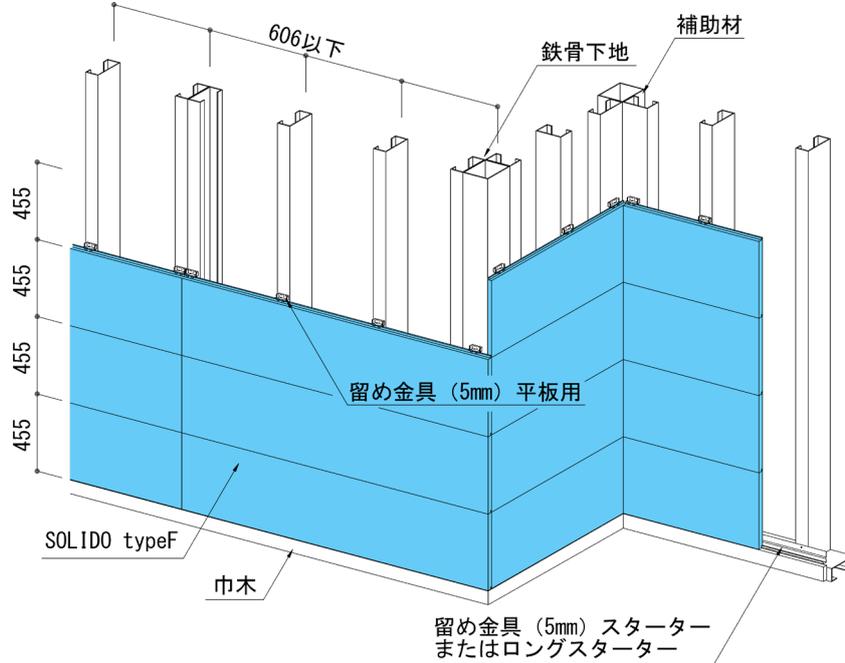


3. 金具工法

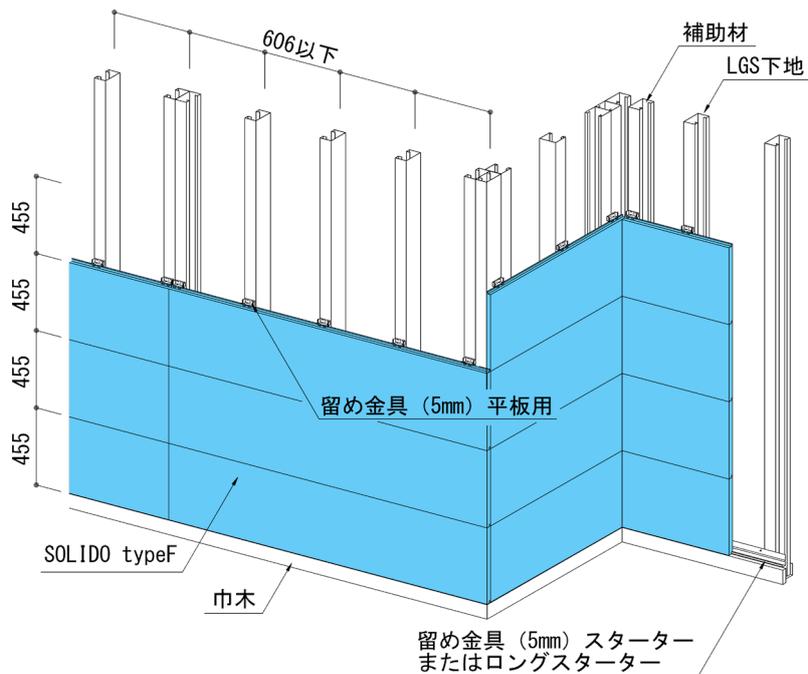
【6】横張り施工のポイント

<2>横張り（5mm金具留め施工の場合）－張り方のポイント－

鉄骨下地の場合



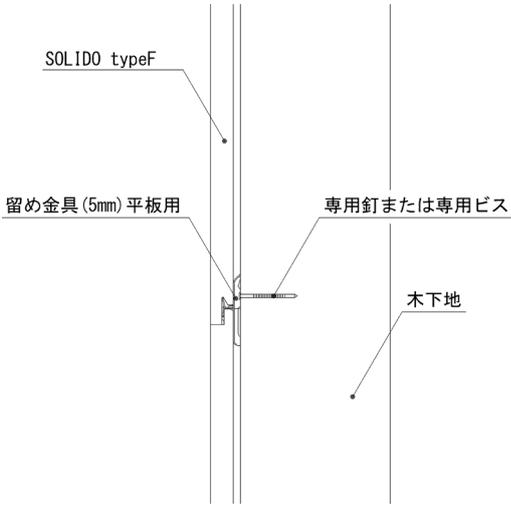
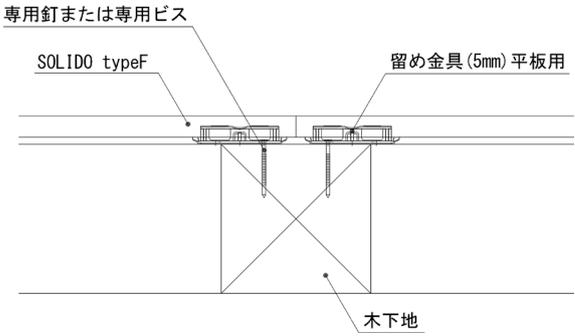
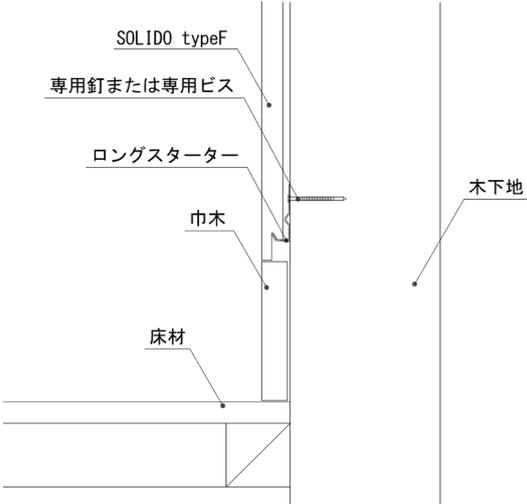
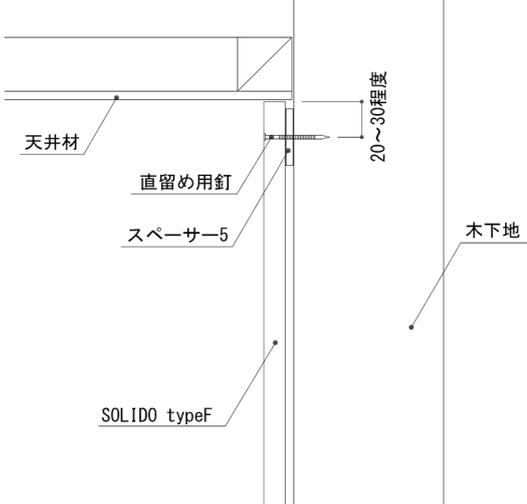
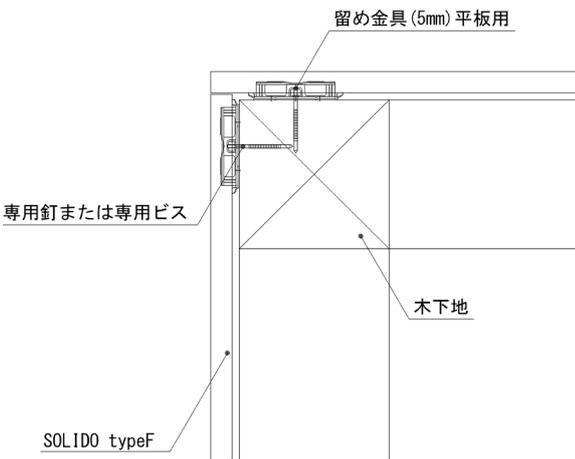
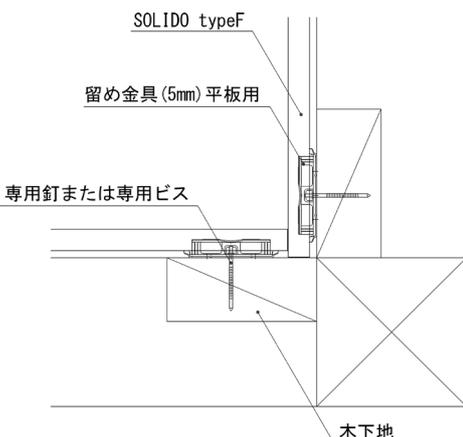
LGS下地の場合



3. 金具工法

【6】横張り施工のポイント

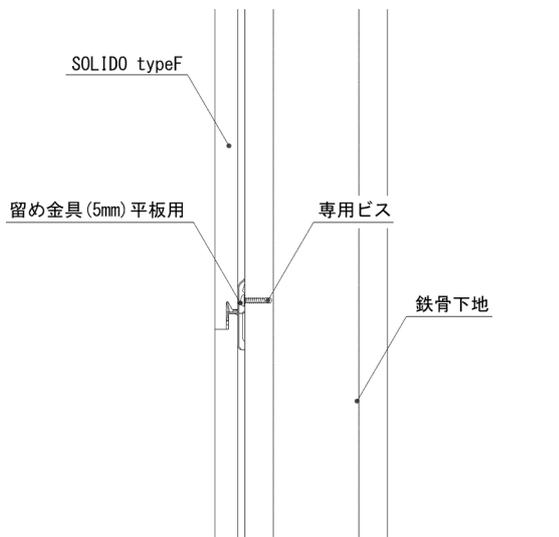
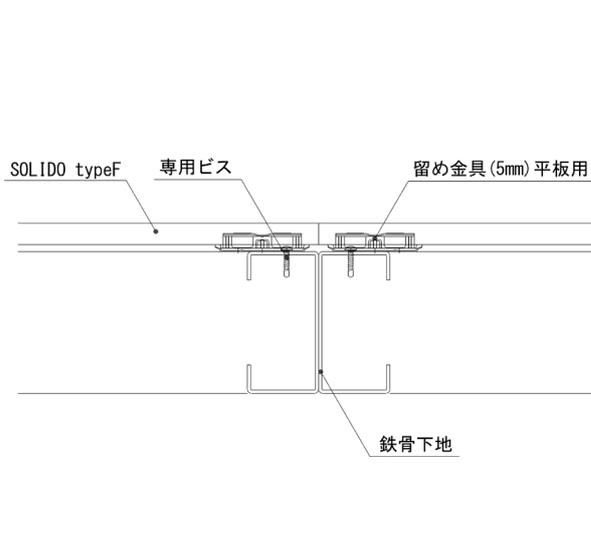
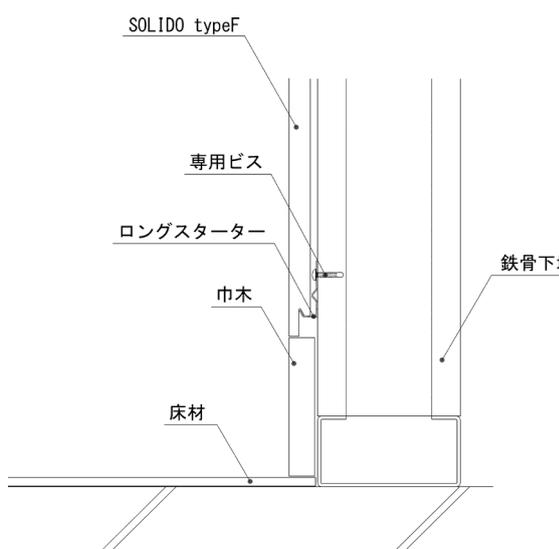
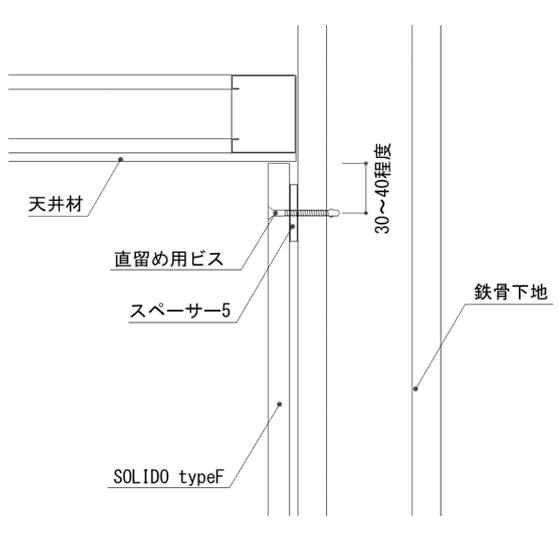
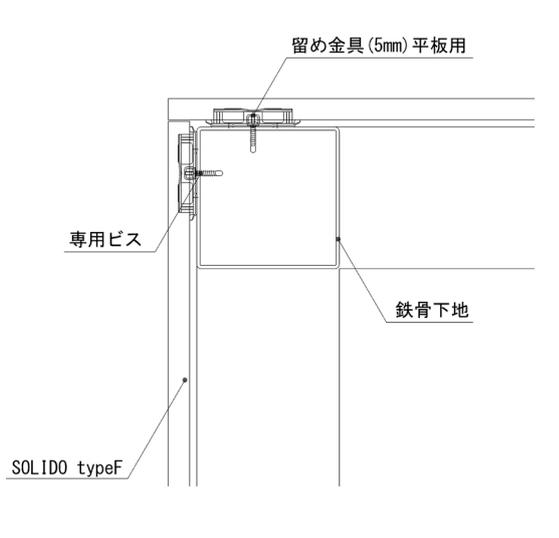
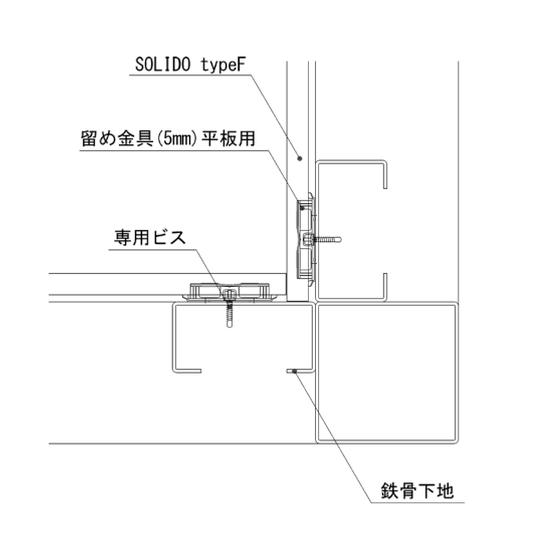
< 3 > 横張り (5mm金具留め施工の場合) - 木下地 -

一般部 (縦断面)	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>専用釘または専用ビス</p> <p>木下地</p>	 <p>専用釘または専用ビス</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>木下地</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>専用釘または専用ビス</p> <p>ロングスターター</p> <p>巾木</p> <p>床材</p> <p>木下地</p>	 <p>天井材</p> <p>直留め用釘</p> <p>スペーサー5</p> <p>20~30程度</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>木下地</p>
出隅部	入隅部
 <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>専用釘または専用ビス</p> <p>木下地</p> <p>SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>専用釘または専用ビス</p> <p>木下地</p>

3. 金具工法

【6】横張り施工のポイント

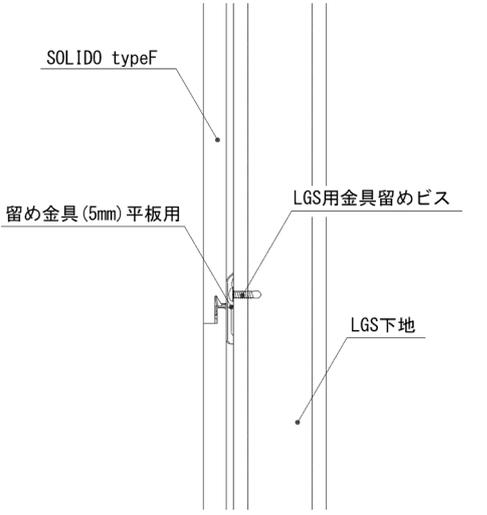
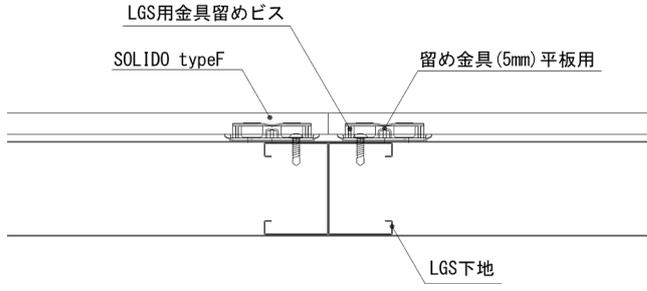
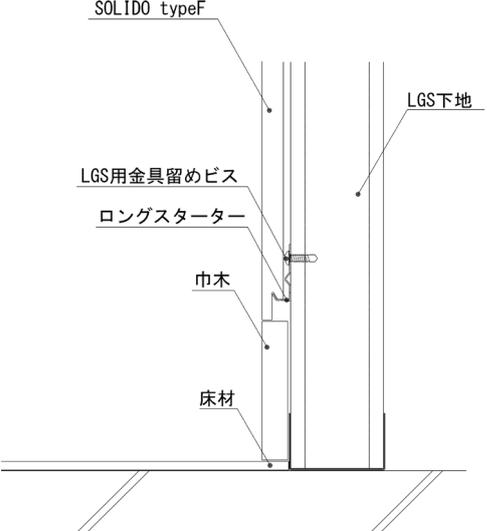
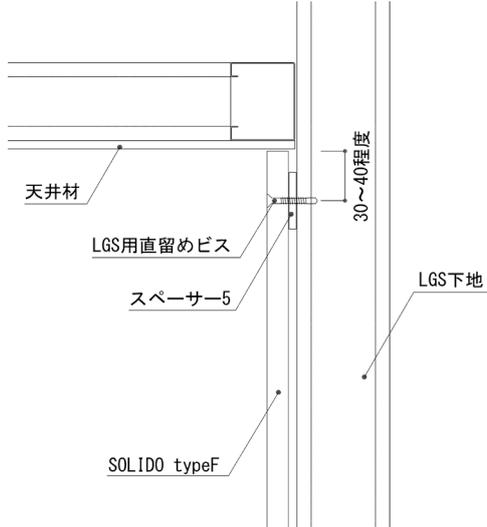
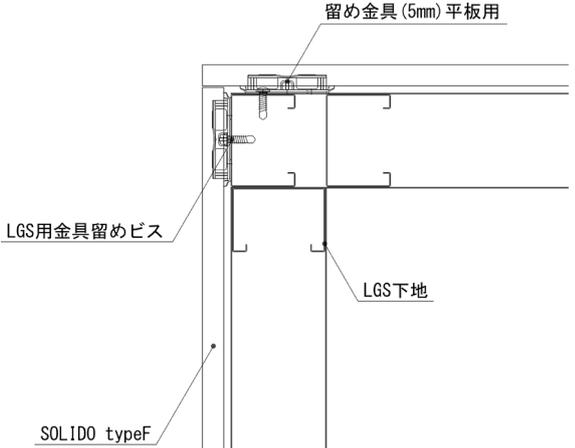
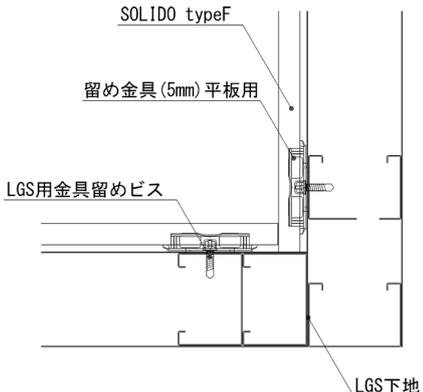
<4>横張り（5mm金具留め施工の場合）－鉄骨下地－

一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>専用ビス</p> <p>鉄骨下地</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>専用ビス</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>鉄骨下地</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>専用ビス</p> <p>ロングスターター</p> <p>巾木</p> <p>床材</p> <p>鉄骨下地</p>	 <p>天井材</p> <p>直留め用ビス</p> <p>スペーサー5</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>30~40程度</p> <p>鉄骨下地</p>
出隅部	入隅部
 <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>専用ビス</p> <p>鉄骨下地</p> <p>SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>専用ビス</p> <p>鉄骨下地</p>

3. 金具工法

【6】横張り施工のポイント

<5>横張り（5mm金具留め施工の場合）－LGS下地－

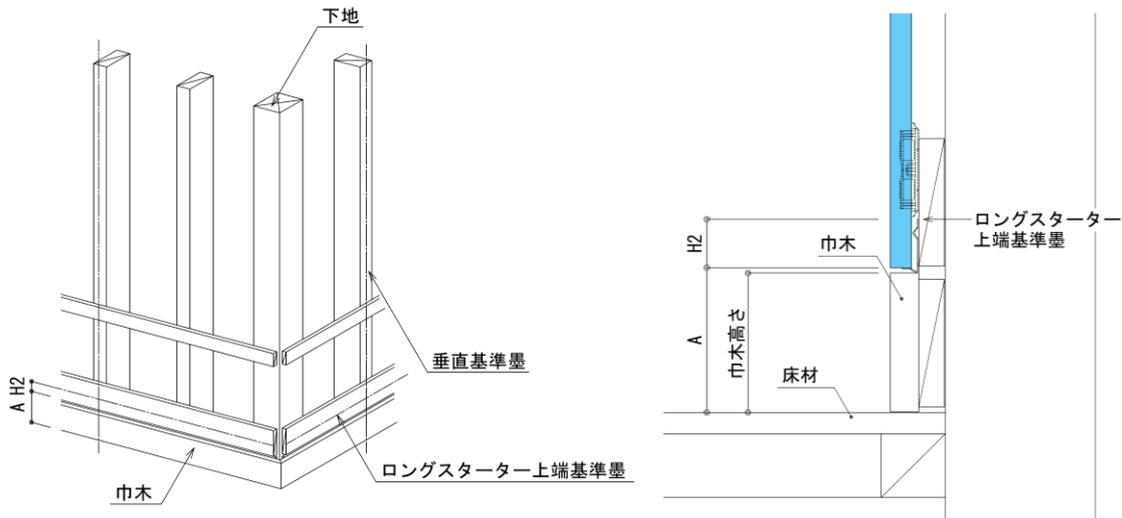
一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

3. 金具工法

【7】縦張り施工のポイント

<1> 墨出し

- 本体施工用の垂直基準墨をうちます。
- 施工面各面に1カ所以上、本体上端取付け用水平基準墨をうちます。
- ロングスターター上端の墨出し位置H2は下表の通りです。
- 巾木ありの場合：巾木上端から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
- 巾木なしの場合：床から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）



	A
巾木あり	巾木高さ+5～6mm程度 (ロングスターター受け部の厚み4mm+1～2mm程度)
巾木なし	5～6mm程度 (ロングスターター受け部の厚み4mm+1～2mm程度)

墨出し位置	ロングスターター上端の墨出し位置 H2
留め金具 (5mm)	35mm
通気留め金具 (15mm)	32mm
ロングスターターなし (直留め)	—

3. 金具工法

【7】縦張り施工のポイント

<2>縦張り（5mm金具留め施工の場合）－張り方のポイント－

●本体は留め金具を使用して施工します。

	留め金具			ロングスターター		
	留付け仕様	留付け間隔	使用部位	留付け仕様	留付け間隔	使用部位
木下地	専用ビス・1本留め	500以下（下地毎）	一般部	専用ビス	500以下（下地毎）	張出し部
鉄骨下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス	606以下（下地毎）	
LGS下地	推奨ビス・1本留め	606以下（下地毎）		推奨ビス	606以下（下地毎）	

●入隅部や開口部左右等、合いじゃくり部分が切断され留め金具が施工できない箇所は、スペーサー5を入れ、端打ち寸法（P7参照）を確保し、先孔（φ2mm程度）をあけてから専用ビスまたは推奨ビスで下地に固定します。

（鉄骨下地の専用ビスを使用する場合は先孔不要）

●留め金具には、複数のビス穴があいています。部位に合わせて穴を選び、必要本数を留付けます。

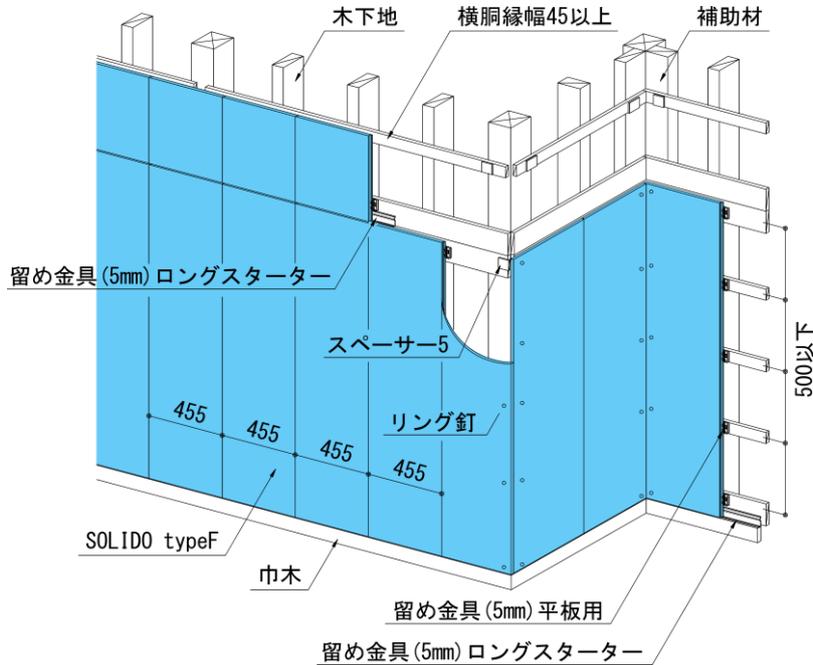
●張出し部1つ目の留め金具は、本体脱落防止のため、必ずロングスターターのすぐ上に取付けてください。

●合いじゃくりの部分の接合は、すき間ができないように差込みます。

●LGS下地の場合：本体の割付けに合わせて金具の留付けができるようにLGS下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地の設置位置の確認をしてください。

●木下地・鉄骨下地の場合：横目地部や張出し部には、下段最上部の留め金具、上段最下部または張出し部のロングスターターおよび留め金具の留付けができるように下地を設けてください。

木下地の場合

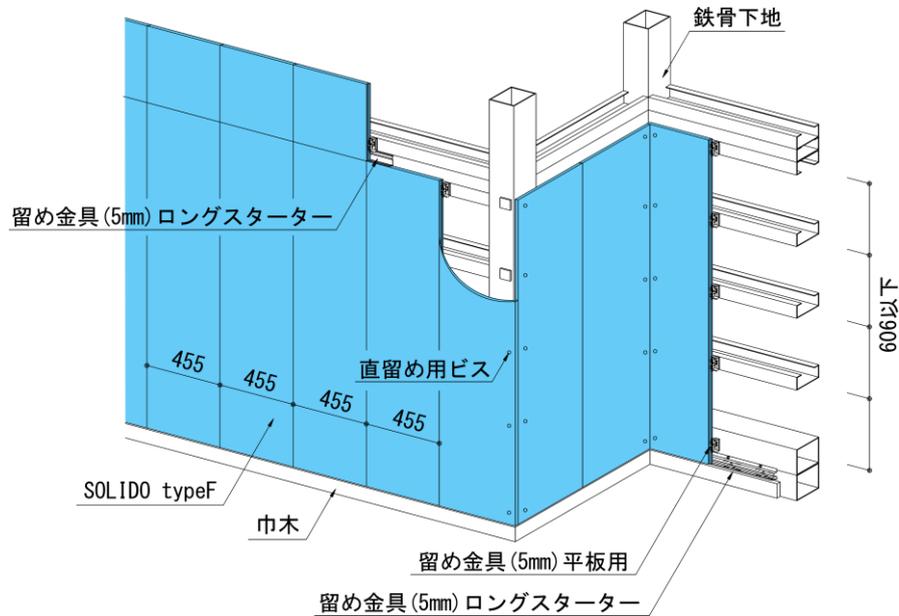


3. 金具工法

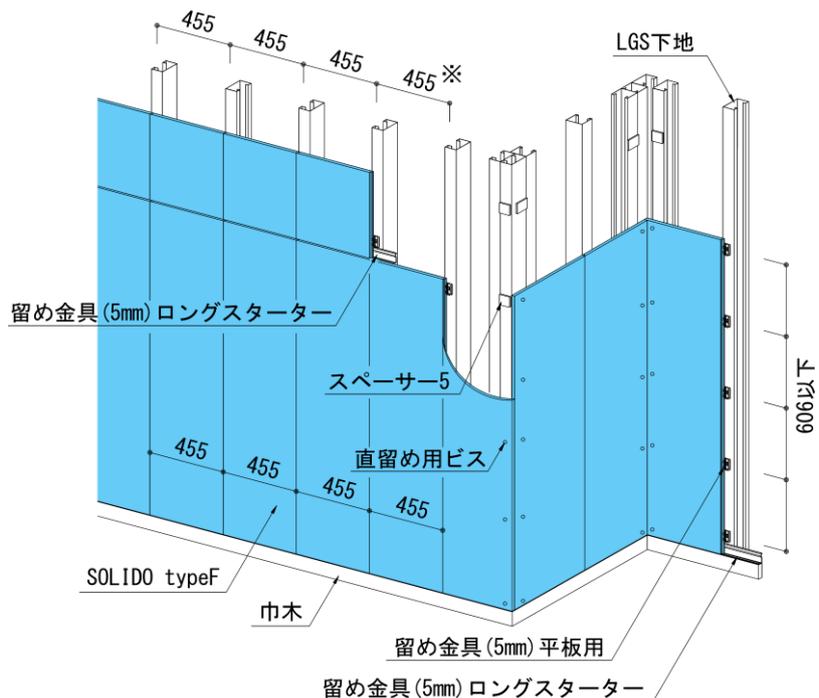
【7】縦張り施工のポイント

<2>縦張り（5mm金具留め施工の場合）－張り方のポイント－

鉄骨下地の場合



LGS下地の場合



※本体の割付けに合わせて金具の留付けができるようにLGS下地を設ける必要があります。

3. 金具工法

【7】縦張り施工のポイント

<3>縦張り (5mm金具留め施工の場合) -木下地-

一般部 (横断面)	横目地部
<p>留め金具 (5mm) 平板用 SOLIDO typeF 横胴縁 専用ビス 木下地</p>	<p>SOLIDO typeF 横胴縁 縦張り用留め金具 (5mm) ロングスターター 専用ビス (ロングスターター同梱品) 8以下 留め金具 (5mm) 平板用 専用ビス 木下地</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 留め金具 (5mm) 平板用 縦張り用留め金具 (5mm) ロングスターター 横胴縁90幅または45幅2列 専用ビス 専用ビス (ロングスターター同梱品) 8以下 巾木 床材 木下地</p>	<p>天井材 専用ビス 留め金具 (5mm) 平板用 横胴縁 SOLIDO typeF 木下地</p>
出隅部	入隅部
<p>20~30程度 スペーサー-5 直留め用釘 木下地 横胴縁 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF 横胴縁 スペーサー-5 直留め用釘 20~30程度 木下地</p>

3. 金具工法

【7】縦張り施工のポイント

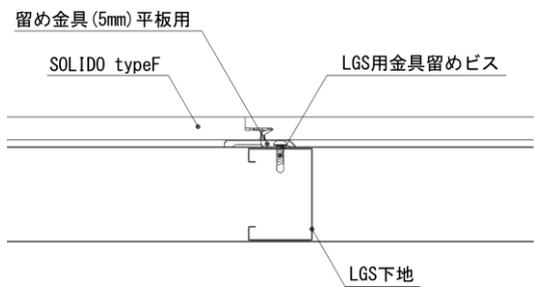
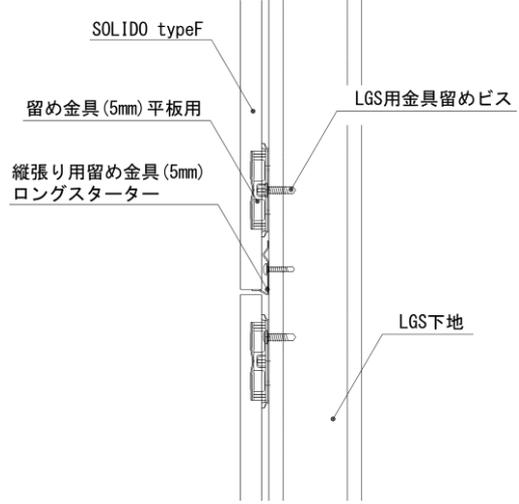
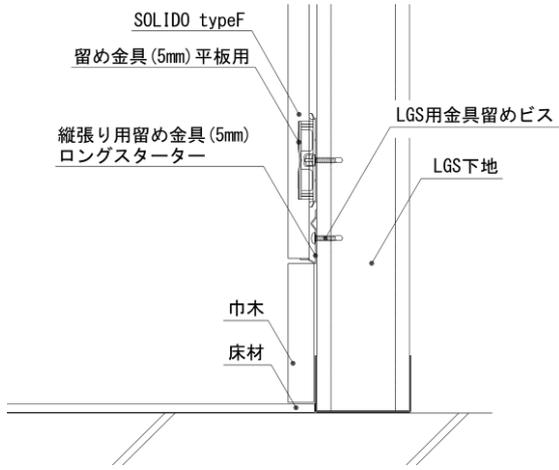
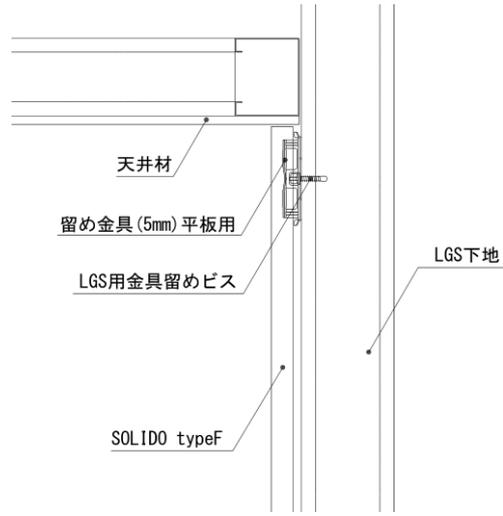
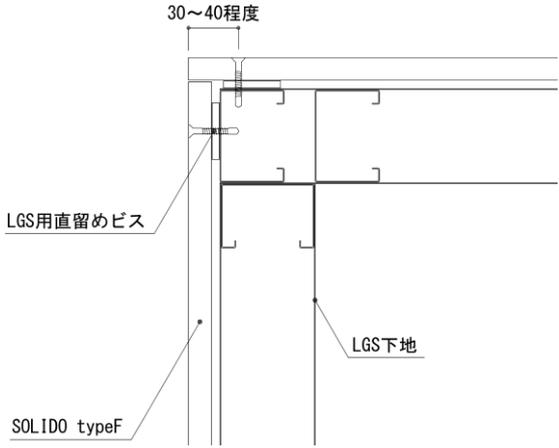
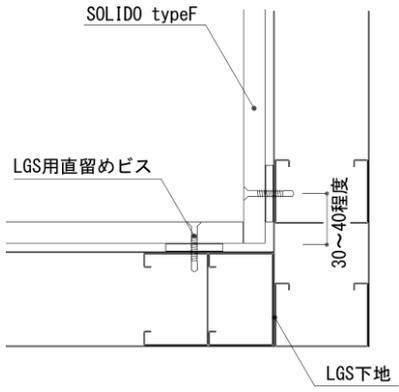
< 3 > 縦張り (5mm金具留め施工の場合) - 鉄骨下地 -

一般部 (横断面)	横目地部
<p>留め金具 (5mm) 平板用 SOLIDO typeF 専用ビス 鉄骨下地</p>	<p>SOLIDO typeF 縦張り用留め金具 (5mm) ロングスターター 留め金具 (5mm) 平板用 専用ビス 鉄骨下地</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 留め金具 (5mm) 平板用 縦張り用留め金具 (5mm) ロングスターター 専用ビス 鉄骨下地 巾木 床材</p>	<p>天井材 専用ビス 鉄骨下地 留め金具 (5mm) 平板用 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
<p>30~40程度 直留め用ビス スペーサー-5 鉄骨下地 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF スペーサー-5 直留め用ビス 鉄骨下地 30~40程度</p>

3. 金具工法

【7】縦張り施工のポイント

< 4 > 縦張り-LGS下地-

一般部（横断面）	横目地部
 <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>LGS用金具留めビス</p> <p>LGS下地</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>縦張り用留め金具 (5mm) ロングスターター</p> <p>LGS用金具留めビス</p> <p>LGS下地</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>縦張り用留め金具 (5mm) ロングスターター</p> <p>LGS用金具留めビス</p> <p>LGS下地</p> <p>巾木</p> <p>床材</p>	 <p>天井材</p> <p>留め金具 (5mm) 平板用</p> <p>LGS用金具留めビス</p> <p>LGS下地</p> <p>SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
 <p>30~40程度</p> <p>LGS用直留めビス</p> <p>LGS下地</p> <p>SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>LGS用直留めビス</p> <p>30~40程度</p> <p>LGS下地</p>

4. 接着工法

【1】適用下地

- 木下地、鉄骨下地、LGS下地に使用して頂けます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、ご採用者様にて、本資料を参考に施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様については下表の通りです。

<面材なしの場合>

(単位:mm)

下地種類			木下地	鉄骨下地	LGS下地
下地 (躯体)	寸法	幅	45以上 ※縦目地部は、90以上または45ダブル		
		厚さ	仮留め材が保持できる寸法であること		
	本体の張り方向	横張り	縦方向		
		縦張り	横方向	縦方向※	
	間隔	横張り	500以下		
		縦張り	500以下	幅方向3本(両端・中央)※	

※本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。下地を施工する際はLGSの設置位置にご注意ください。

<面材ありの場合>

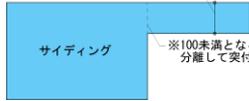
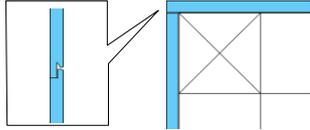
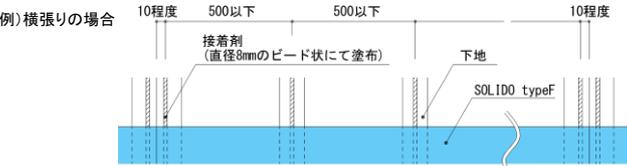
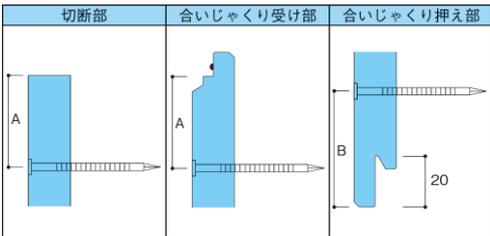
(単位:mm)

下地種類			木下地	鉄骨下地	LGS下地
下地 (躯体)	寸法	幅	45以上 ※縦目地部は、90以上または45ダブル		
		厚さ	仮留め材が保持できる寸法であること		
	本体の張り方向	横張り	縦方向		
		縦張り	横方向	縦方向※	
	間隔	横張り	500以下		
		縦張り	500以下	幅方向3本(両端・中央)※	
面材	種類	下記のいずれかとする <ul style="list-style-type: none"> ・せっこうボード ・構造用合板 ・ケイ酸カルシウム板 ・セメント板 			
	固定方法	下地(躯体)に固定されており、割れや著しい反り、不陸等、経年で本体固定に影響を及ぼす劣化のない固定方法であること			

※本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。下地を施工する際はLGSの設置位置にご注意ください。

4. 接着工法

【2】施工仕様

本体加工	最小加工幅		<p>凹型加工：板幅の1/2以上 板幅の1/2以上</p>  <p>※1/2未満となる場合は分離して突付け</p> <p>L型加工：100mm以上 100以上</p>  <p>※100未満となる場合は分離して突付け</p> <p>※上記規定未満となる場合は分離して突付け</p>
	各部納まり	目地部	<p>合いじゃくり接合 または 突付け</p> <p>※縦目地部では、横揺れによる本体木口面の欠け防止のため、10m毎に合計15mm以上のクリアランスをとること</p>
出入隅部		<p>突付け</p> <p>※横張りの場合、出隅部では勝ち側の木口に合いじゃくり部が露出します（補修する場合はP43参照）</p> 	
張出し部		<p>巾木納め（推奨）</p> <p>※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1~2mm程度上げる</p>	
天井等 他部材取合い部		突付け	
接着剤	推奨接着剤	MPX-1（コニシ株）、ペンギンセメント937H（サンスター技研株）	
	塗布面	本体裏面、下地（躯体）表面、面材表面のいずれか	
	塗布方法	<p>全般：直径8mmのビード状にて塗布</p> <p>両端部：本体端部より10mm程度内側に幅方向全長に塗布</p> <p>中央部：長手方向500mm以下の間隔（下地毎）で幅方向全長に塗布</p> <p>※縦張りLGS下地（面材なし）の場合は、両端部のみに長手方向全長に塗布</p> <p>例）横張りの場合</p> 	
	必要塗布量	180g/m ² 以上	
	養生・施工環境条件	接着剤の規定に従うこと	
留付け（仮留め）	留付け材	P24 「仮留め材適用表」参照	
	留付け間隔	幅方向	<p>フィニッシュネイル：3本以上</p> <p>ステンスリング釘：2本以上</p> <p>ステンスビス：2本以上</p>
		長手方向	500mm以下（下地毎）
	端打ち寸法	<p>フィニッシュネイル（木・LGS下地） A=15~25mm B=30~40mm</p> <p>ステンスリング釘（木下地） A=20~30mm B=40~50mm</p> <p>ステンスビス（LGS・鉄骨下地） A=30~40mm B=50~60mm</p> 	
その他	補修・仕上げ	<p>SOLIDO typeFは、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤等を使用して下さいますようお願いいたします。</p> <p>P43に市販補修剤使用の一例を示します。</p>	
	付帯物	下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可	

4. 接着工法

【3】使用部材

●推奨接着剤

品名	形状	主成分	シックハウス対応	容量
ボンドMPX-1		一液性 変性シリコーン 樹脂系接着剤	JIS F☆☆☆☆、 JAIA 4VOC基準適合	333ml/本
	問合せ先：コニシ(株)接着相談室 TEL：0120-281168 土日祝日を除く 10：00～12：00 13：00～17：00			
ペンギンセメント 937H		ウレタン樹脂系接着剤	JIS F☆☆☆☆、 JAIA 4VOC基準適合	320ml/本
	問合せ先：サンスター技研(株)品質保証グループ TEL：055-284-3761 土日祝日を除く 10：00～12：00 13：00～17：00			

●仮留め材適用表

(単位：mm)

下地	面材 ※1	面材厚さ	フィニッシュネイル ※2	リング釘	ビス	
木下地	なし	—	Φ1.0×45(50)	「面材厚さ+30」以上の ステンレスリング釘 ※面材厚さが10未満の 場合は、近似色釘の 「リング釘40」が使用可	—	
	全種	10未満				
	構造用合板	10以上				
	その他面材	10以上	—			
鉄骨下地	なし	—	—	—	B88501(φ4.5×50)	
	全種	15未満			—	B8860(φ5.0×60)
		15以上25未満				「面材厚さ+30」以上の 長さのビス
		25以上				
LGS下地 ※2	なし	—	Φ1.0×35	—	【推奨ビス】 軽天タッピング フレキ 3.5×32 (若井産業㈱)	
	全種	10未満	Φ1.0×45(50)		「面材厚さ+30」以上の 長さの軽天用ビス	
	構造用合板	10以上	Φ1.0×35以上			
	その他面材		—			

※1 適用面材の種類はP22を参照してください。

※2 LGS(厚0.5mm)下地で仮留め材にフィニッシュネイルを使用する場合、フィニッシュネイルの使用空気圧力は 目安として 0.8MPa 以上が必要です。

※推奨ビスについて

軽天タッピング フレキ 3.5×32	問合せ先：若井産業(株) TEL：06-6783-4101 品コード：71332SF
-----------------------	--

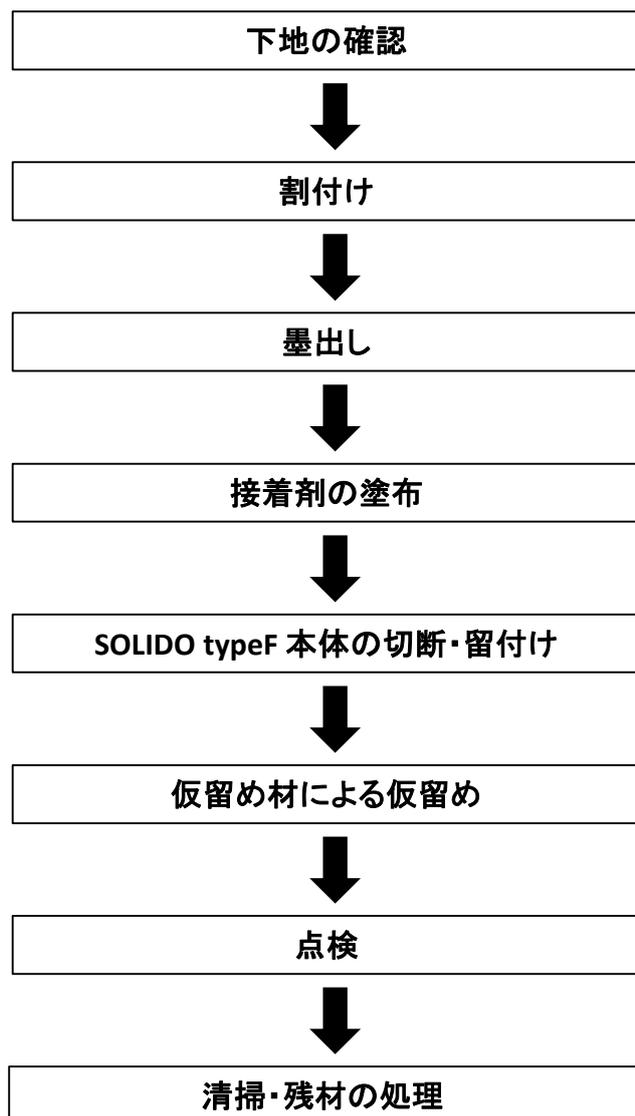
4. 接着工法

【4】施工工具

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ100)	B491	 外径:100mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド ^{テン} 10(φ125)	B492	 外径:125mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

【5】施工手順

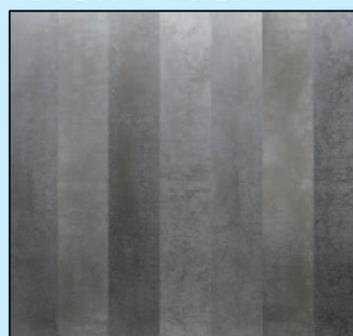


- ※一枚一枚の色味が大きく異なりますが、製造上、色味の近い商品が偏って納品される場合があります。
- ※施工の前に、仮並べをして配置を検討してから施工することをおすすめします。

色味を確認しなかった例



色味を確認して配置を検討した例

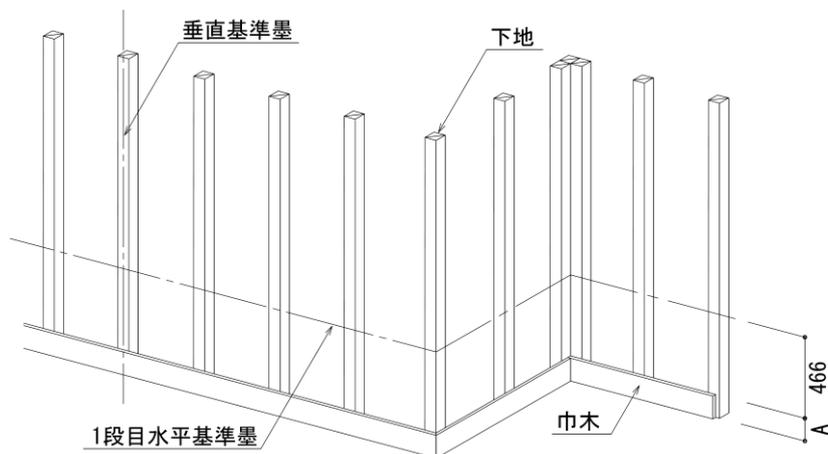


4. 接着工法

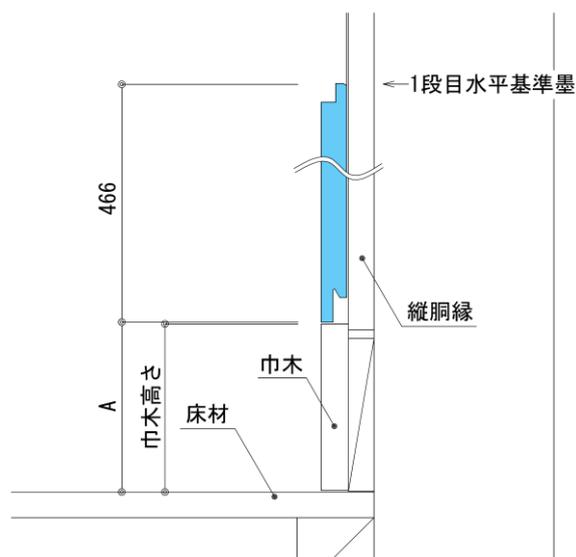
【6】横張り施工のポイント

<1> 墨出し

- 本体の水平基準を出すため、本体一段目の水平基準墨をうちます。
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。
- 巾木ありの場合：巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
- 巾木なしの場合：床から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）



	A
巾木あり	巾木高さ+1~2mm程度
巾木なし	1~2mm程度



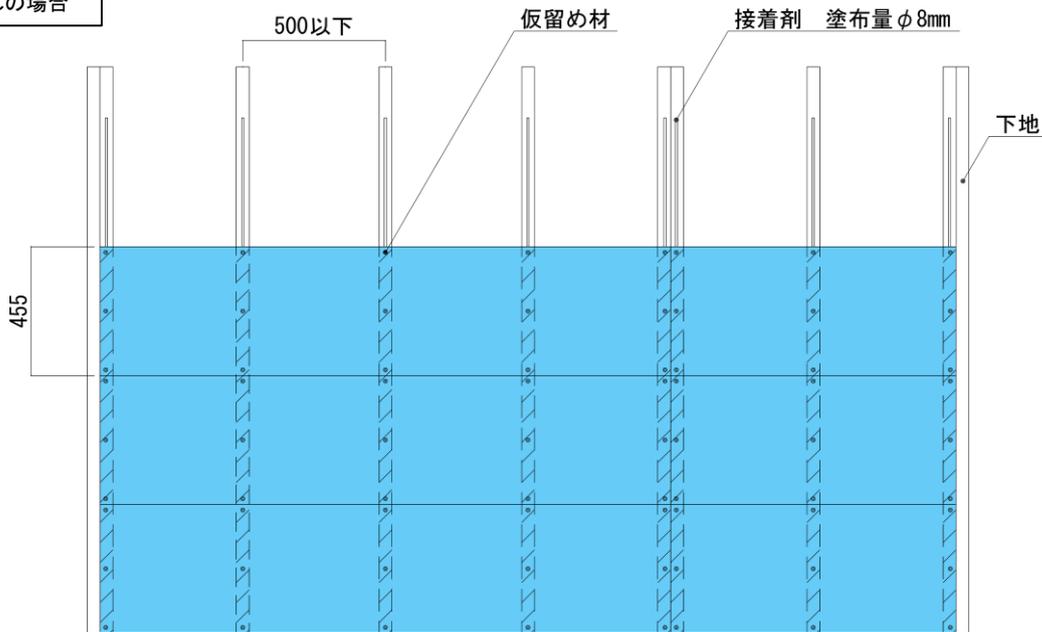
4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

<2>横張り一張り方のポイント

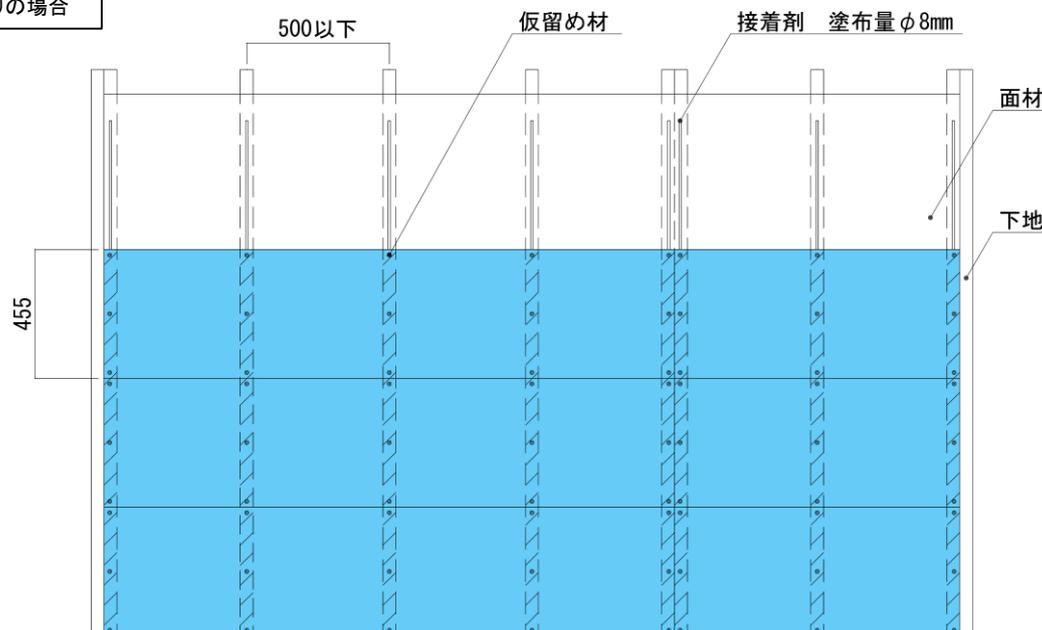
- 本体は、推奨接着剤または同等性能以上の接着剤と、仮留め材（フィニッシュネイル、リング釘、ビス）を併用して施工します。
※推奨接着剤、仮留め材：P24参照
※乾燥硬化型（エマルジョンタイプ、溶剤タイプ）の接着剤は使用しないでください。本体の反りや接着不良の原因となります。
- 推奨接着剤の塗布方法は、直径8mmのビード状にて、塗布量180g/m²以上を推奨しています。
- 仮留めは下地（躯体）または保持力のある面材（P24参照）に500mm以下の間隔で仮留め固定してください。
フィニッシュネイル：幅方向3本以上 ステンレスリング釘（ビス）：幅方向2本以上
- 仮留めの際は端打ち寸法（P23参照）を確保してください。
- リング釘、ビスで仮留めをする場合は、先孔（φ2mm程度）をあけてから固定してください。

面材なしの場合



※図はフィニッシュネイルで仮留めをした場合

面材ありの場合



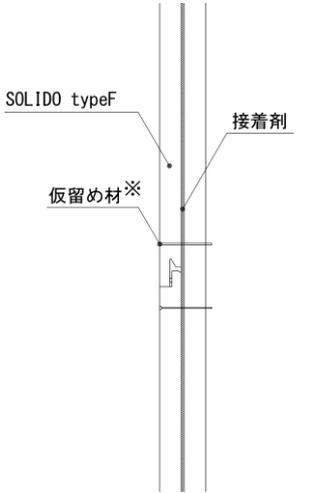
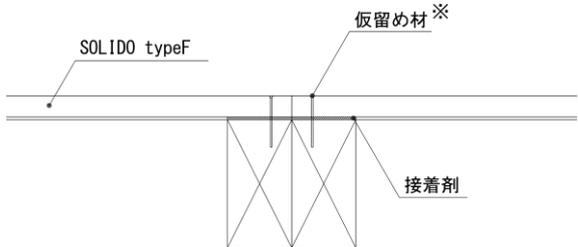
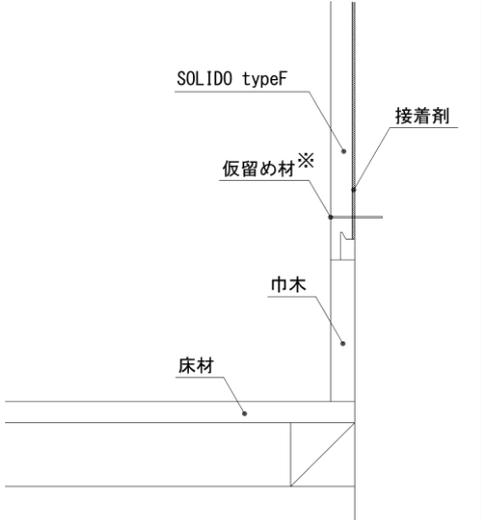
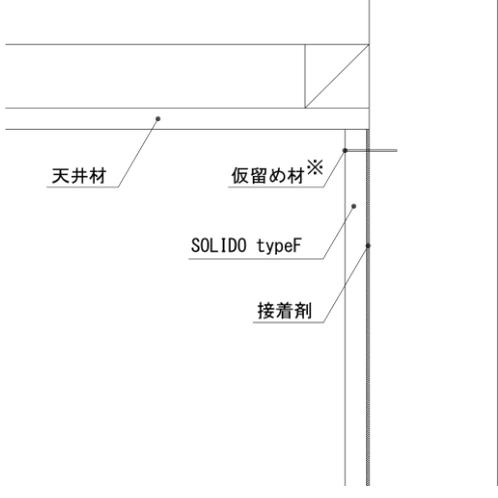
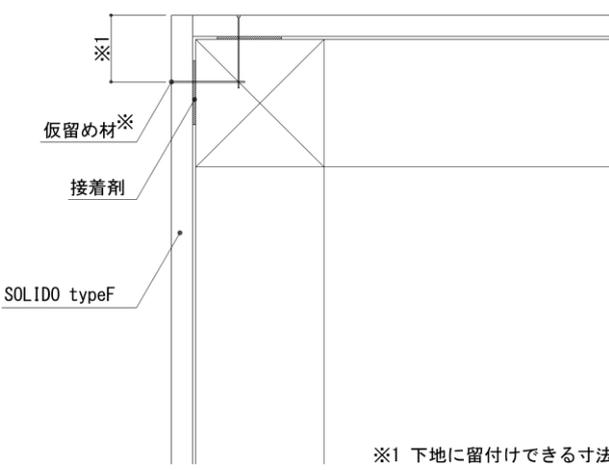
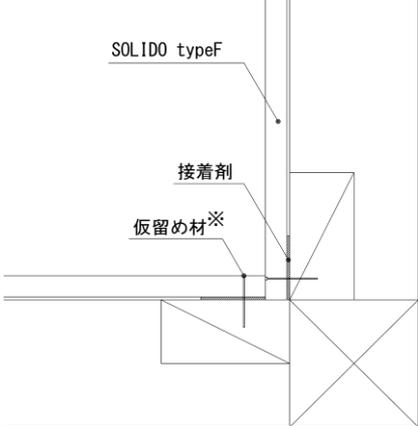
※図はフィニッシュネイルで仮留めをした場合

4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

<3>横張り一木下地：面材なし

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>接着剤</p> <p>仮留め材※</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>仮留め材※</p> <p>接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF</p> <p>接着剤</p> <p>仮留め材※</p> <p>巾木</p> <p>床材</p>	 <p>天井材</p> <p>仮留め材※</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>接着剤</p>
出隅部	入隅部
 <p>※1</p> <p>仮留め材※</p> <p>接着剤</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>※1 下地に留付けできる寸法</p>	 <p>SOLIDO typeF</p> <p>接着剤</p> <p>仮留め材※</p>

4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

<4>横張り一木下地：面材あり

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（縦断面）	縦目地部
<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 仮留め材※</p>	<p>SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤 面材</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 仮留め材※ 巾木 床材</p>	<p>天井材 仮留め材※ SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>
出隅部	入隅部
<p>※1 仮留め材※ 接着剤 面材 SOLIDO typeF</p> <p>※1 下地に留付けできる寸法</p>	<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 仮留め材※</p>

4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

<5>横張りー鉄骨下地：面材なしー

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（縦断面）	縦目地部
<p>SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤</p>	<p>SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤 巾木 床材</p>	<p>天井材 仮留め材※ SOLIDO typeF 接着剤</p>
出隅部	入隅部
<p>仮留め材※ 接着剤 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF 接着剤 仮留め材※</p>

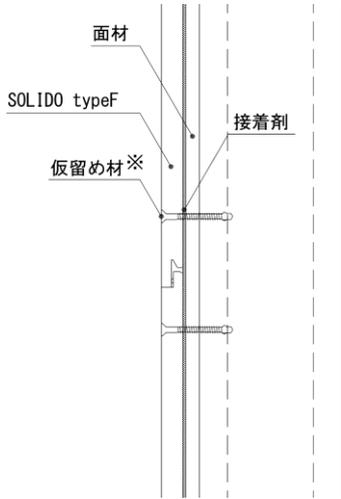
4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

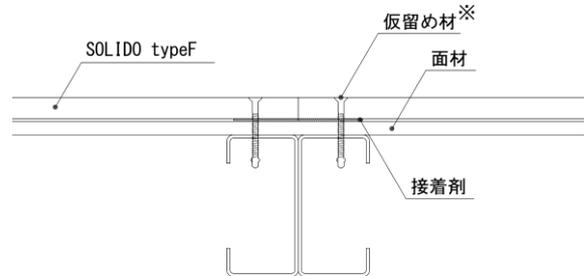
<6>横張りー鉄骨下地：面材ありー

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

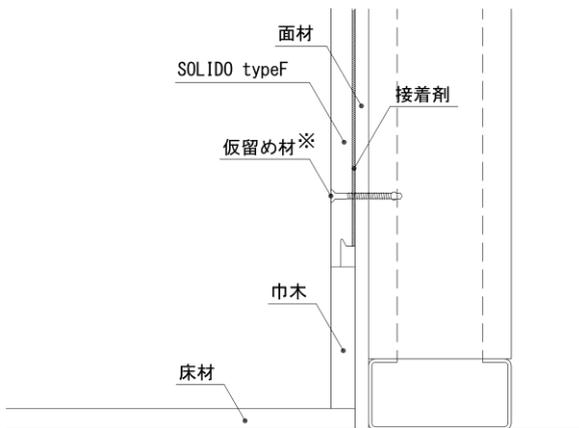
一般部（縦断面）



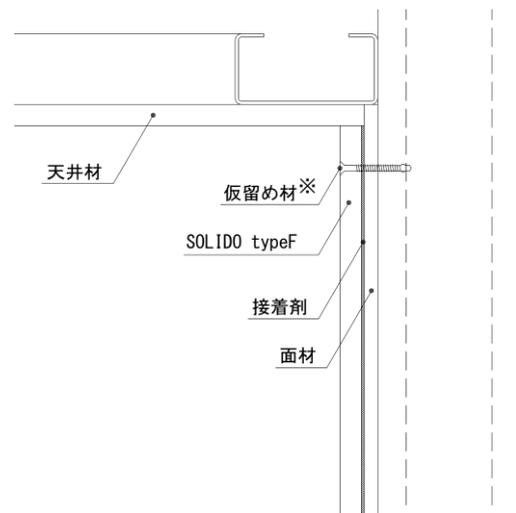
縦目地部



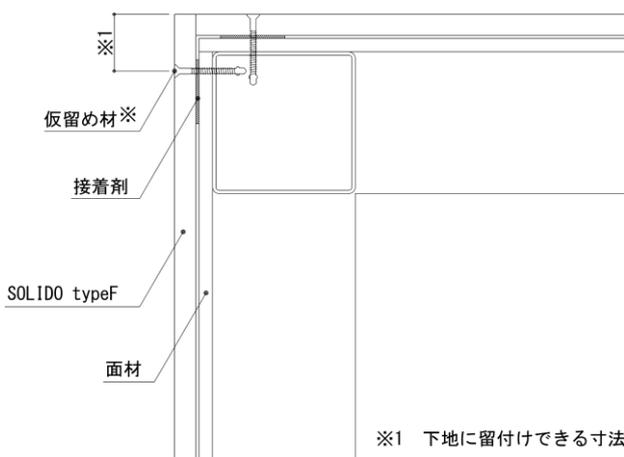
床取合い部



天井取合い部

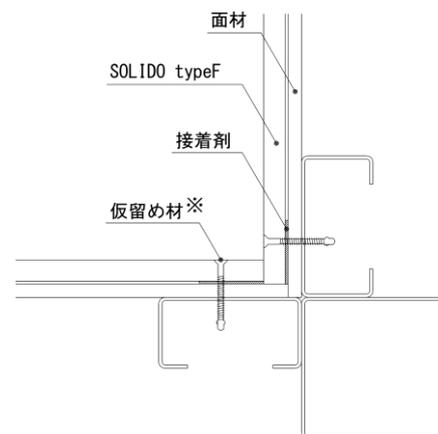


出隅部



※1 下地に留付けできる寸法

入隅部

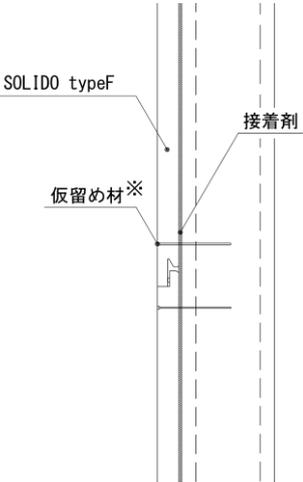
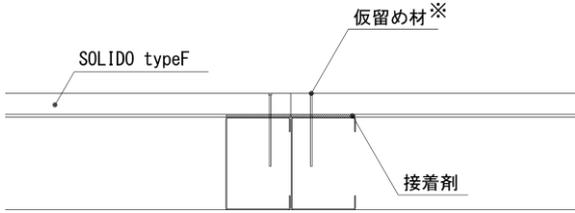
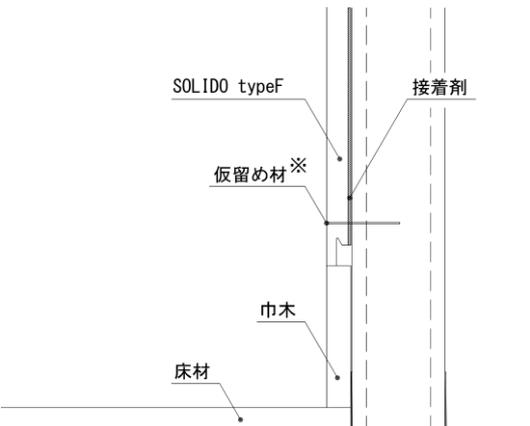
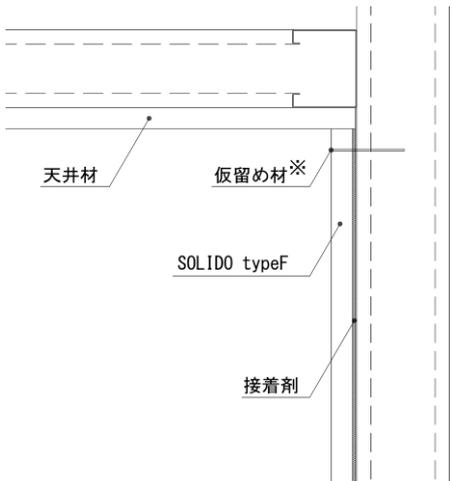
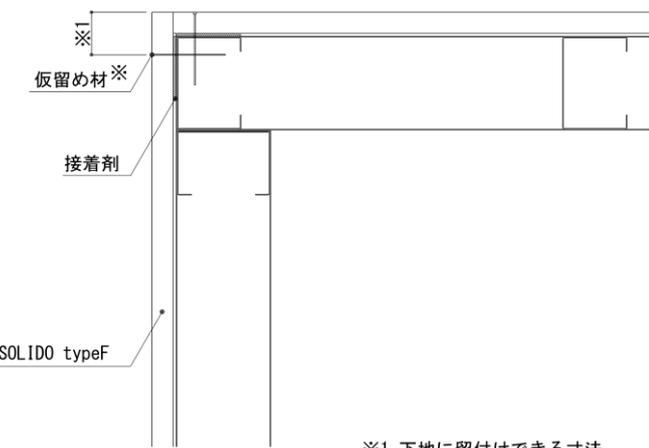
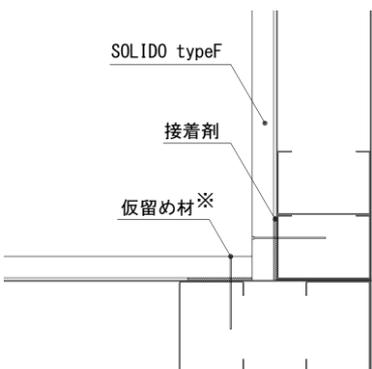


4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

<7>横張りーLGS下地：面材なしー

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 接着剤 仮留め材※</p>	 <p>SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF 接着剤 仮留め材※ 巾木 床材</p>	 <p>天井材 仮留め材※ SOLIDO typeF 接着剤</p>
出隅部	入隅部
 <p>※ 仮留め材※ 接着剤 SOLIDO typeF</p> <p>※1 下地に留付けできる寸法</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 仮留め材※</p>

4. 接着工法

【6】横張り施工のポイント

< 8 > 横張りーLGS下地：面材ありー

※仮留め材の端打ち寸法はP 23参照

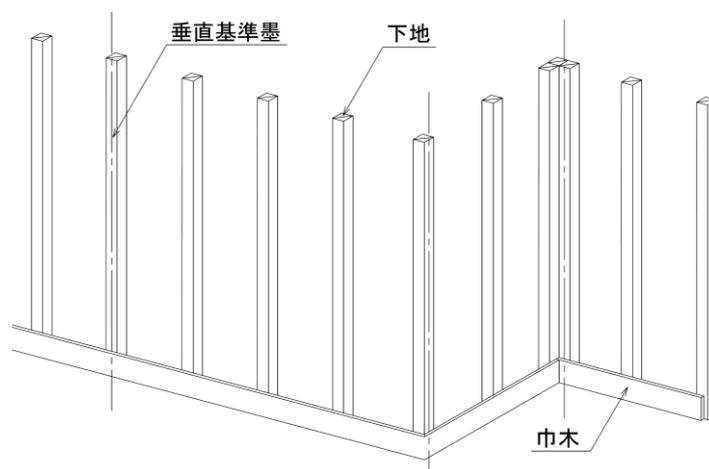
一般部（縦断面）	縦目地部
<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 仮留め材※</p>	<p>SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤 面材</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 仮留め材※ 巾木 床材</p>	<p>天井材 仮留め材※ SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>
出隅部	入隅部
<p>※1 仮留め材※ 接着剤 面材 SOLIDO typeF</p> <p>※1 下地に留付けできる寸法</p>	<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 仮留め材※</p>

4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

<1>墨出し

- 施工面各面に1カ所、垂直基準墨をうちます。



4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

＜2＞縦張りー張り方のポイントー

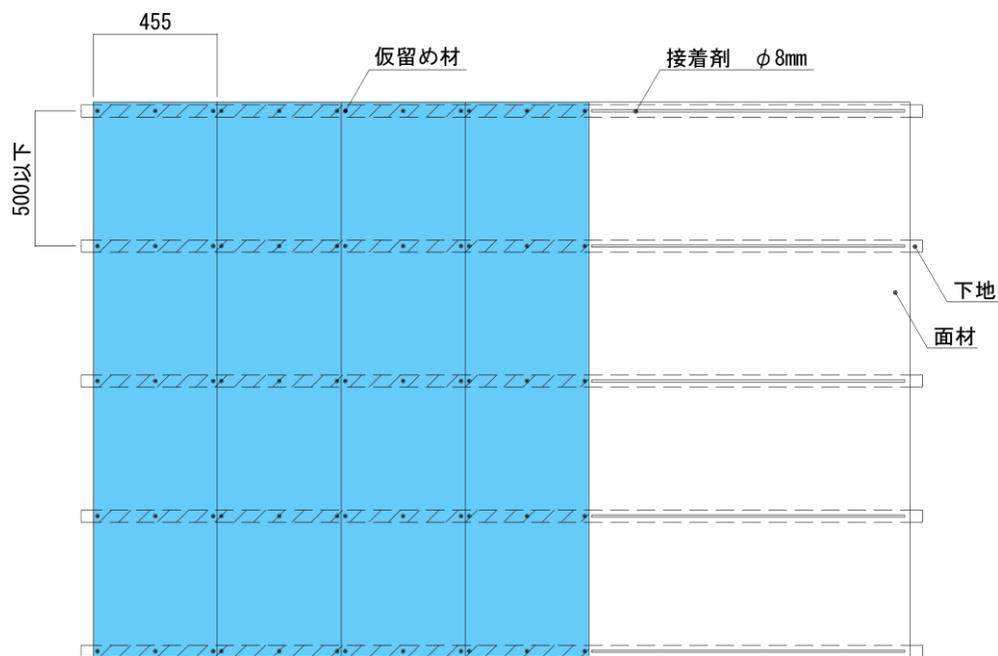
- 本体は、推奨接着剤または同等性能以上の接着剤と、仮留め材（フィニッシュネイル、リング釘、ビス）を併用して施工します。
※推奨接着剤、仮留め材：P24参照
※乾燥硬化型（エマルジョンタイプ、溶剤タイプ）の接着剤は使用しないでください。本体の反りや接着不良の原因となります。
- 推奨接着剤の塗布方法は、直径8mmのビード状にて、塗布量180g/m²以上を推奨しています。
- 仮留めは下地（躯体）または保持力のある面材（P24参照）に500mm以下の間隔で仮留め固定してください。
フィニッシュネイル：幅方向3本以上 ステンレスリング釘（ビス）：幅方向2本以上
- 仮留めの際は端打ち寸法（P23参照）を確保してください。
- リング釘、ビスで仮留めをする場合は、先孔（φ2mm程度）をあけてから固定してください。
- LGS下地の場合：本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

木下地・鉄骨下地 面材なしの場合



※図はフィニッシュネイルで仮留めをした場合

木下地・鉄骨下地 面材ありの場合



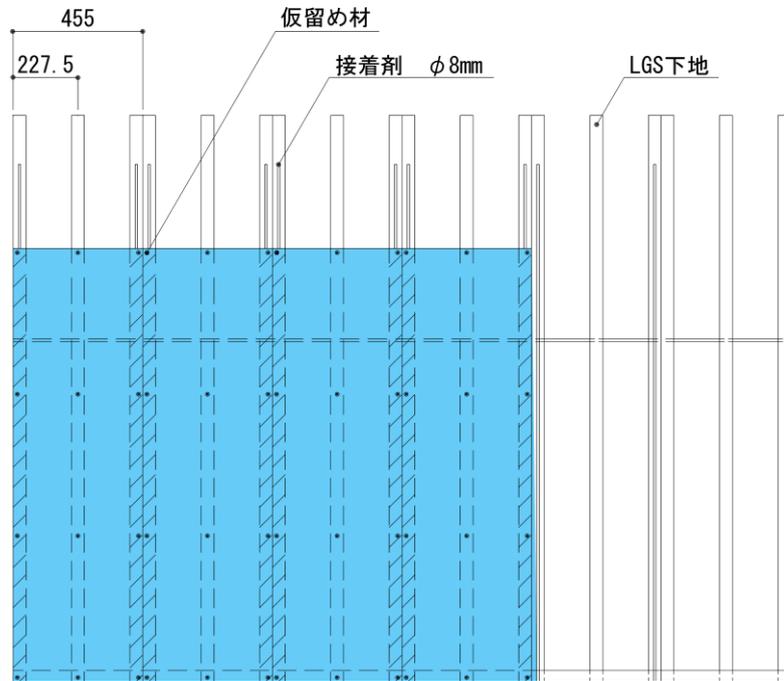
※図はフィニッシュネイルで仮留めをした場合

4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

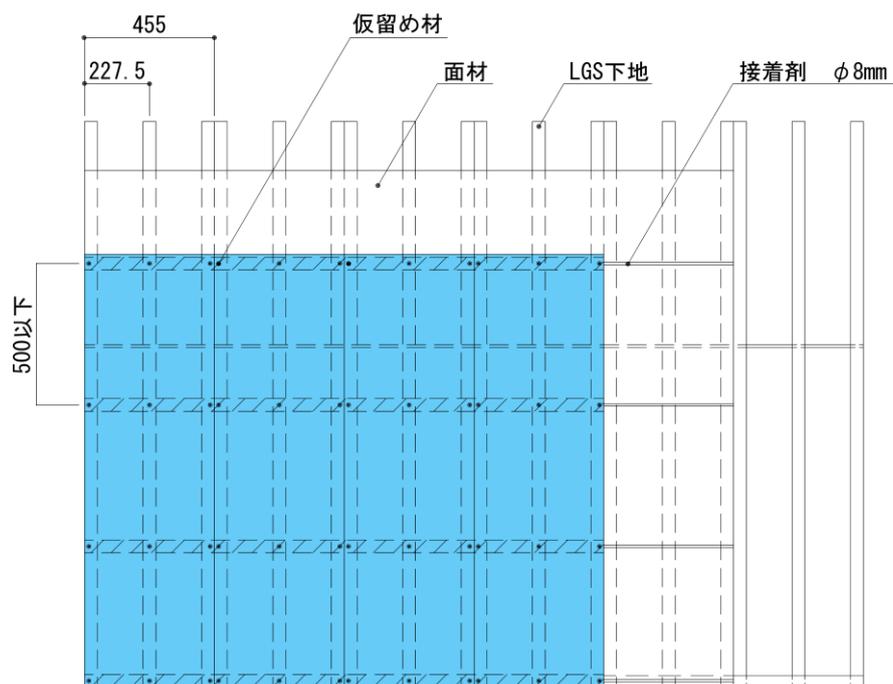
<2>縦張り一張り方のポイント

LGS下地 面材なしの場合



※図はフィニッシュネイルで仮留めをした場合

LGS下地 面材ありの場合



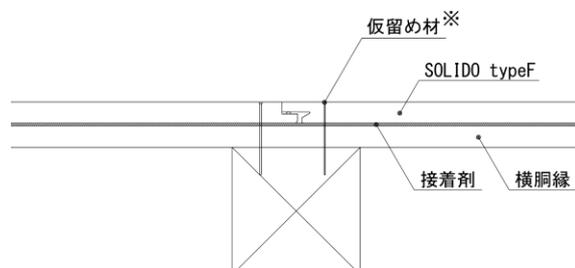
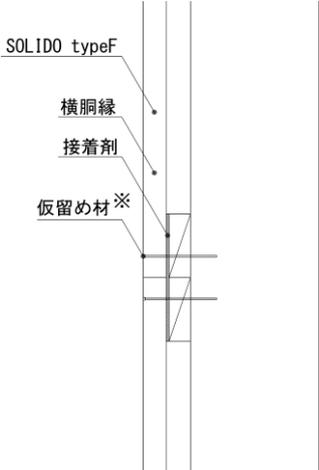
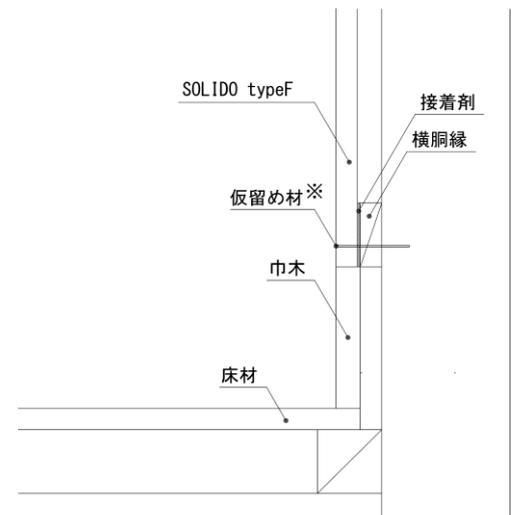
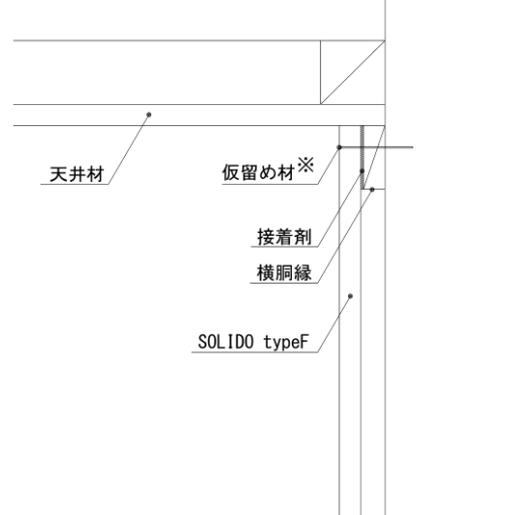
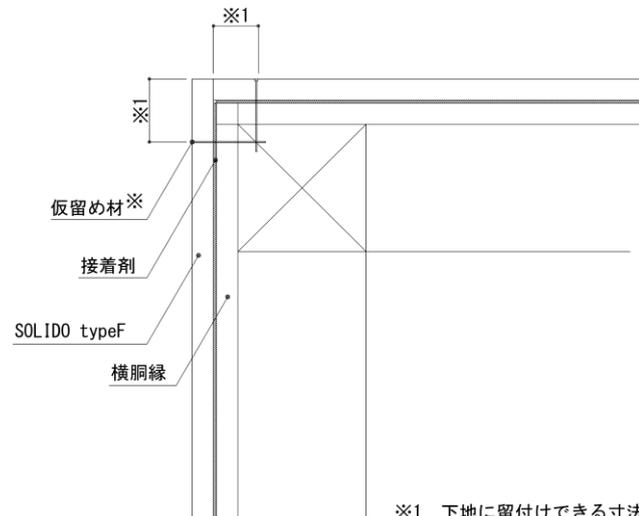
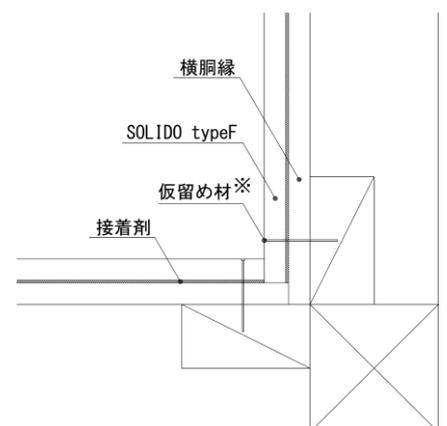
※図はフィニッシュネイルで仮留めをした場合

4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

<3>縦張り一木下地：面材なし

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

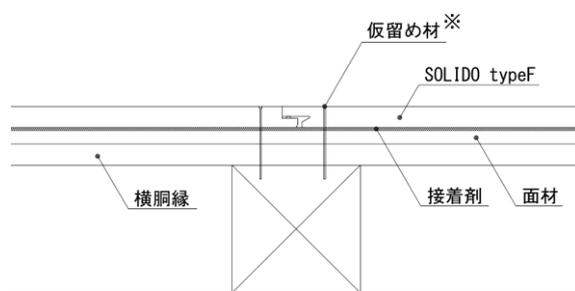
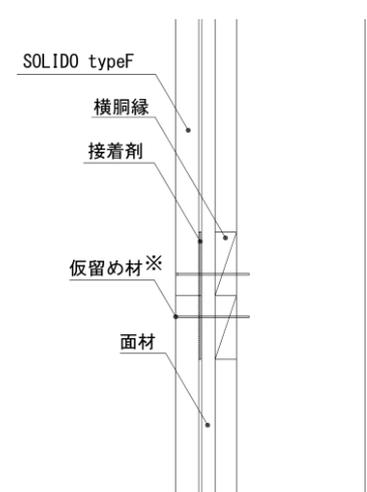
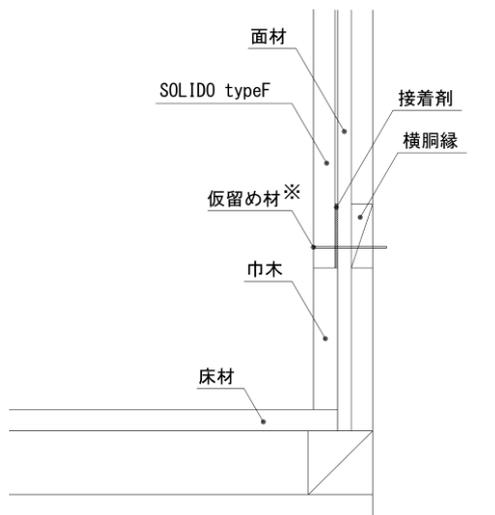
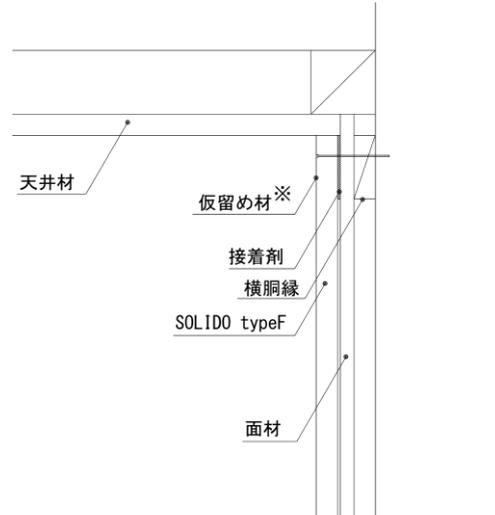
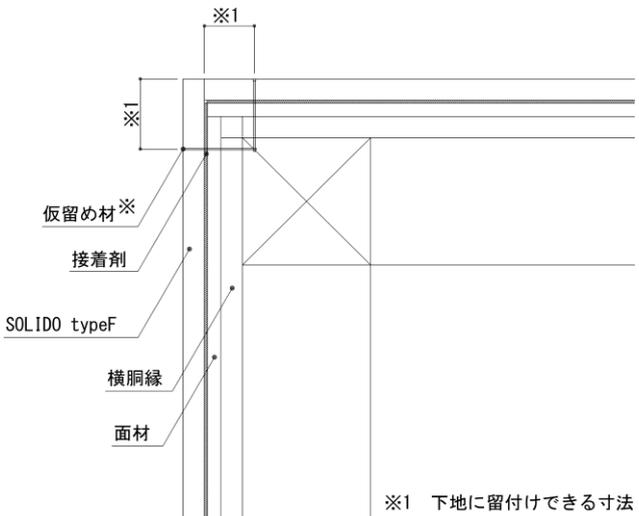
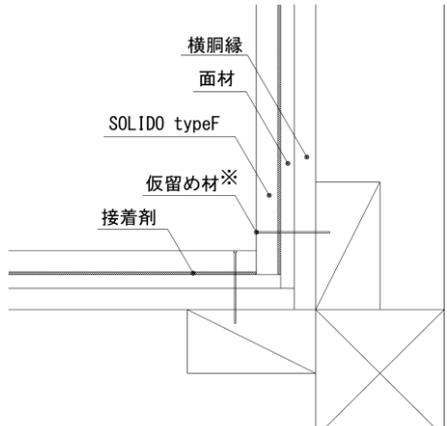
一般部（横断面）	横目地部
 <p>仮留め材※ SOLIDO typeF 接着剤 横胴縁</p>	 <p>SOLIDO typeF 横胴縁 接着剤 仮留め材※</p> <p>注) 施工高さが3.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF 接着剤 横胴縁 仮留め材※ 巾木 床材</p>	 <p>天井材 仮留め材※ 接着剤 横胴縁 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
 <p>※1 仮留め材※ 接着剤 SOLIDO typeF 横胴縁</p> <p>※1 下地に留付けできる寸法</p>	 <p>横胴縁 SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤</p>

4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

< 4 > 縦張り一木下地：面材あり

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

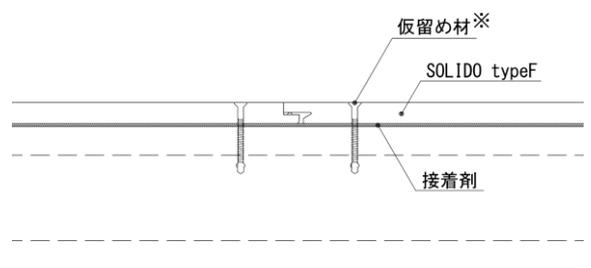
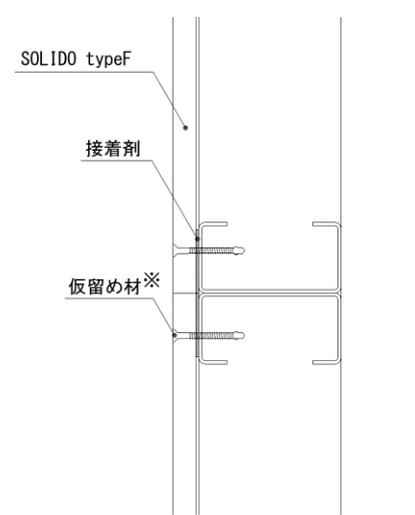
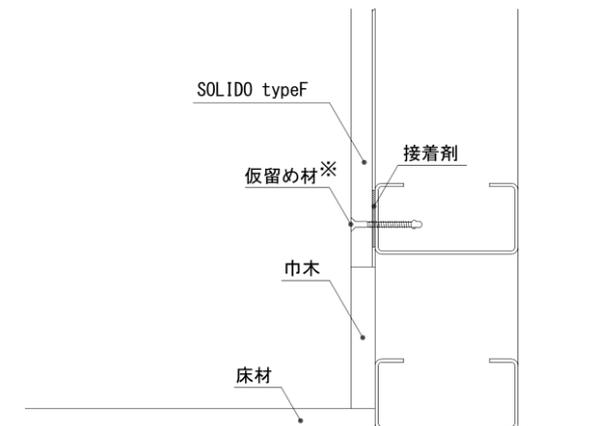
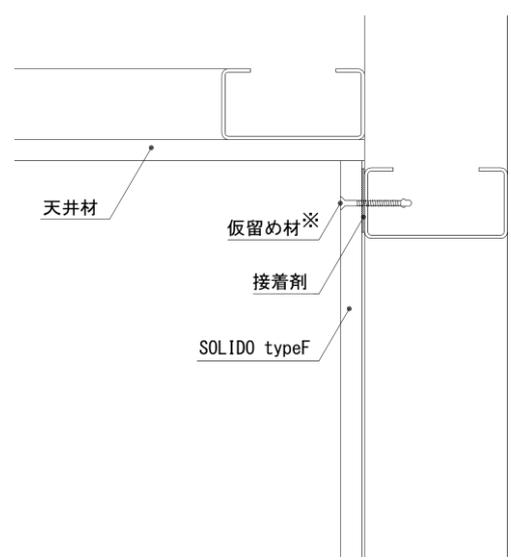
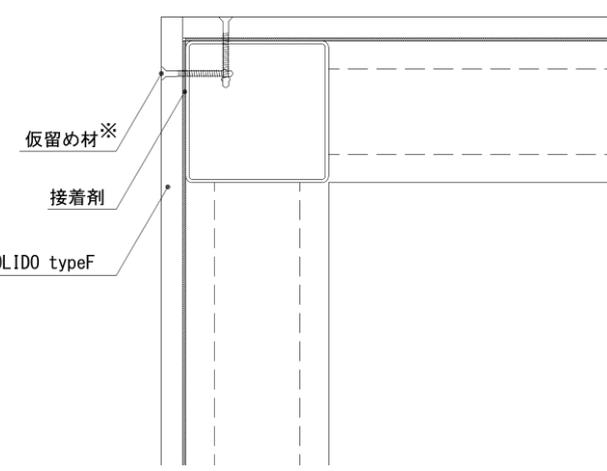
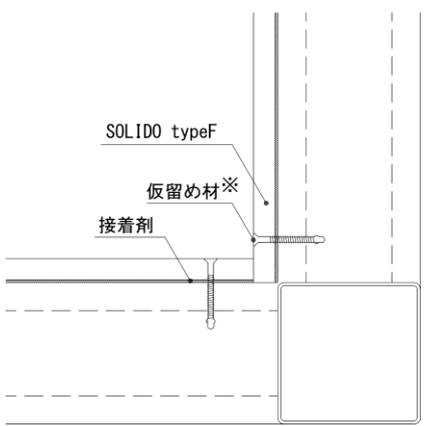
一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 851 1372 884">注) 施工高さが3.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
 <p data-bbox="494 2083 766 2116">※1 下地に留付けできる寸法</p>	

4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

<5> 縦張りー鉄骨下地：面材なしー

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 862 1372 896">注) 施工高さが3.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

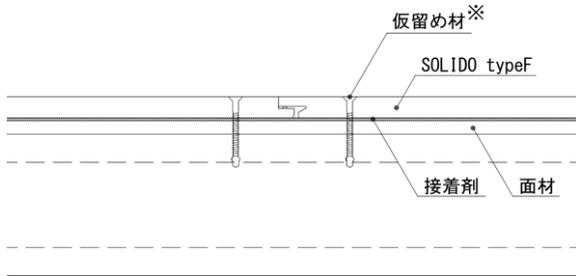
4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

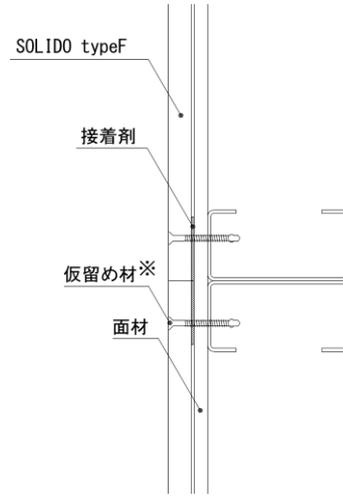
<6>縦張り—鉄骨下地：面材あり—

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（横断面）

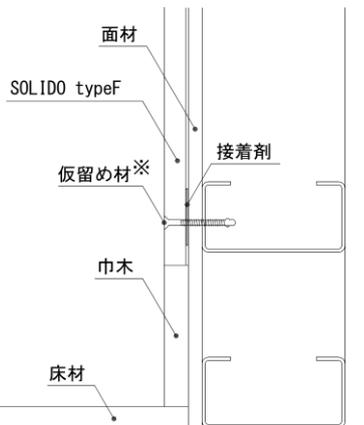


横目地部

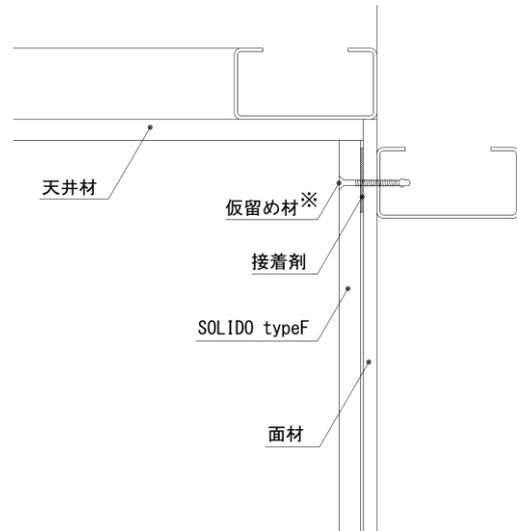


注) 施工高さが3.2mを超える部分は接着工法での施工不可

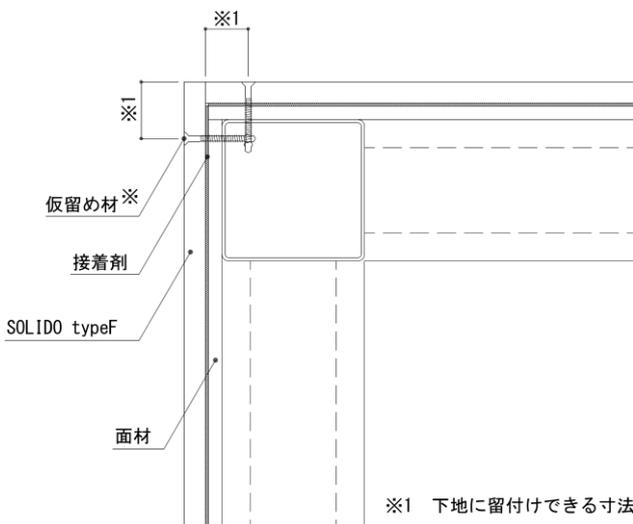
床取合い部



天井取合い部

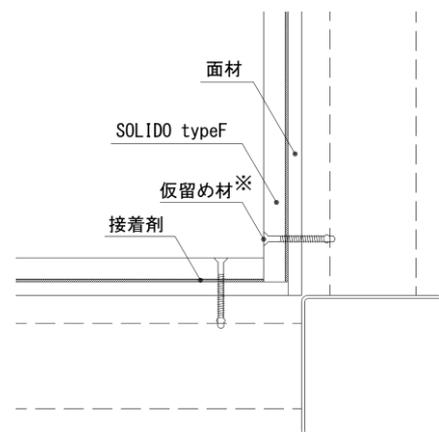


出隅部



※1 下地に留付けできる寸法

入隅部

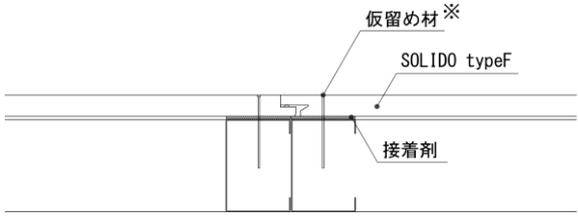
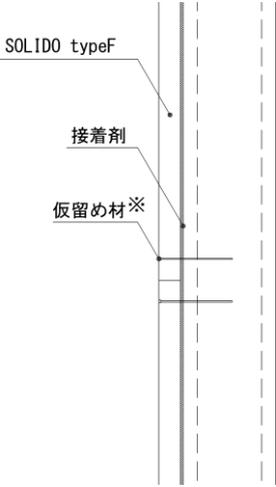
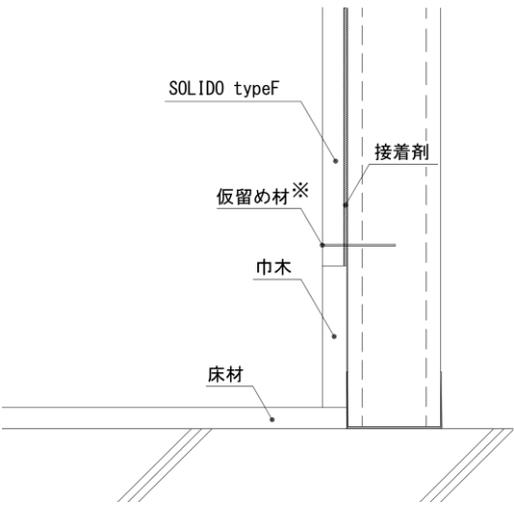
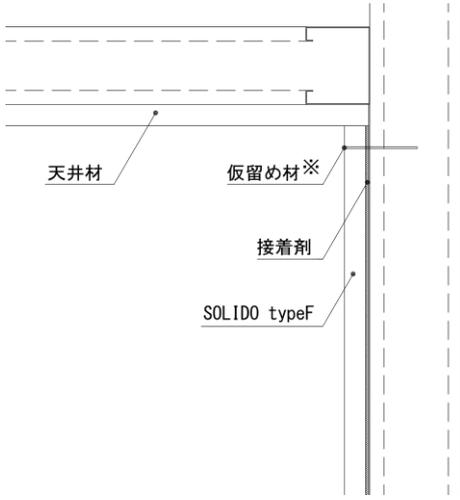
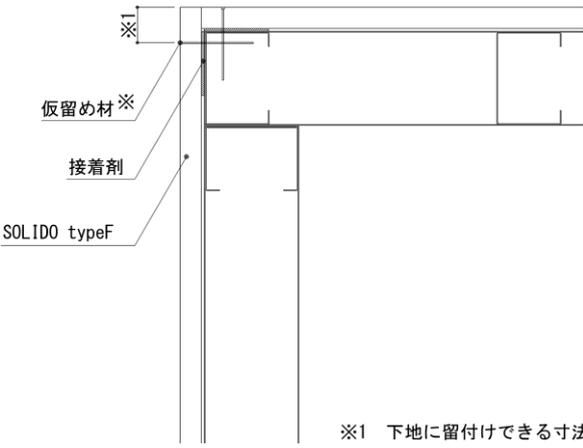
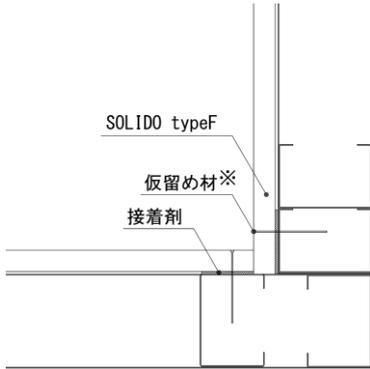


4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

<7>縦張りーLGS下地：面材なしー

※仮留め材の端打ち寸法はP23参照

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="831 860 1374 889">注) 施工高さが3.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
 <p data-bbox="486 2085 742 2114">※1 下地に留付けできる寸法</p>	

4. 接着工法

【7】縦張り施工のポイント

< 8 > 縦張り-LGS下地：面材あり

※仮留め材の端打ち寸法はP 23参照

一般部（横断面）	横目地部
<p>仮留め材※ SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>	<p>SOLIDO typeF 接着剤 仮留め材※ 面材</p> <p>注) 施工高さが3.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>面材 SOLIDO typeF 接着剤 仮留め材※ 巾木 床材</p>	<p>天井材 仮留め材※ 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>
出隅部	入隅部
<p>※1 仮留め材※ 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p> <p>※1 下地に留付けできる寸法</p>	<p>面材 SOLIDO typeF 仮留め材※ 接着剤</p>

5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<1>補修・仕上げについて

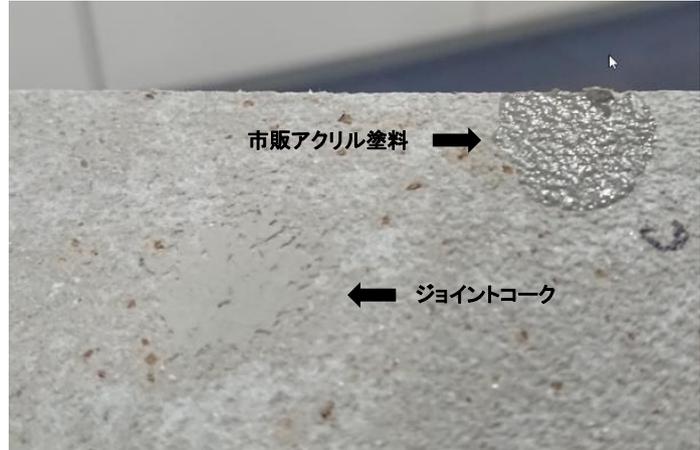
●SOLIDO typeFは、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤等を使用してください。

<参考例>

「ジョイントコーク・A」 ヤヨイ化学工業株

F☆☆☆☆

※ホームセンター等で販売されています。



- ・市販のアクリル塗料に比べて艶が無くSOLIDO typeFになじみます。
- ・現場で混ぜて使う事で、1枚毎に色味が異なるSOLIDO typeFに対応可能です。

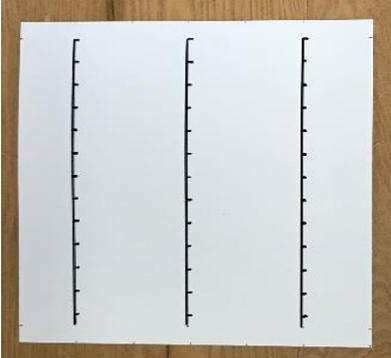
※「ジョイントコーク・A」について

補修・仕上げの参考例としてのご紹介のため、ヤヨイ化学株で下記内容に関する保証お問合せ対応はしていませんのでご了承ください。

- ・施工に関する内容
- ・色味や仕上り外観等
- ・施工後の変色等の不具合等

<2>準備物

- 補修に必要な準備物は下記の通りです。
- 「ジョイントコーク・A」は、ジュラク・ブラック・グレーの3色を使用して調合し、塗布する箇所の色に合わせます。

ジョイントコーク・A	攪拌、塗装用のヘラ	ジョイントコークを混ぜる用紙 (白い厚紙等)
<p>ブラック ジュラク グレー</p>  	 <p>はかり（無くても可）</p> 	<p><例：白い厚紙></p> <p>用紙サイズ：約150mm角</p> <p>※はかりを使用しない場合は、マジックで等間隔に目盛りを打って調合の目安とする (下の例では、1目盛り=10mm)</p> 

5. 参考資料

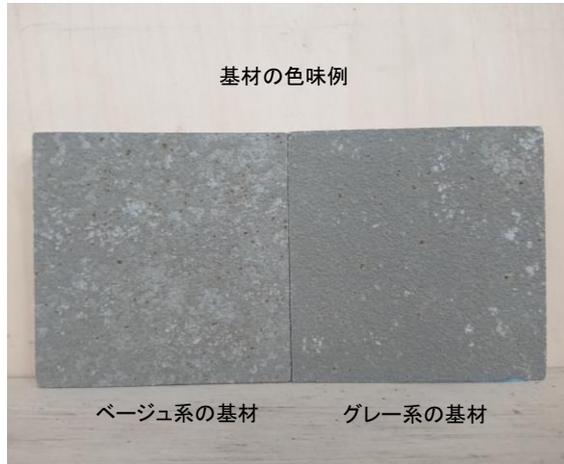
【1】補修・仕上げ方法

<3> 調色・調合方法 -SOLIDO typeF coffee-

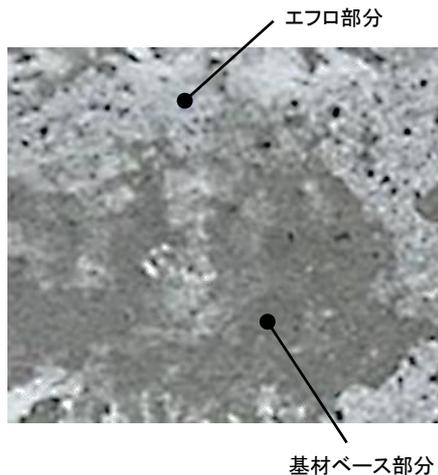
① 調色について

(1) SOLIDO typeF coffeeは、ベージュ系～グレー系で基材色にばらつきがあります。

また、同一基材内でもエフロと基材箇所では色味が異なりますので、塗布する箇所に合わせて事前に試し調合を行ってください。



(2) エフロ部分の色に合わせて補修するか、基材ベース部分の色に合わせて補修するかを決めてください。



(3) 塗布する箇所に合わせて、ジョイントコークを混ぜてください。(下表参照)

※あくまでも参考ですので、実際の板に合わせて調整が必要です。

SOLIDO typeF coffeeの参考割合

参考割合		基材色	
		ベージュ系の基材	グレー系の基材
塗布箇所	基材ベース部分	ブラック 2 ジュラク 23	ブラック 5 ジュラク 10 グレー 22
	エフロ部分	ブラック 1 ジュラク 3 グレー 13	ブラック 1 グレー 20

推奨色
エフロに似せて仕上げることで補修跡が比較的目立ちにくくなります

5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<3> 調色・調合方法 -SOLIDO typeF coffee-

② 調合方法

(1) ジョイントコークのキャップをとります。
(使用後は、キャップをはめて保存します。)



(2) ジョイントコークの先端を切断します。



(3) <はかりを使用する場合>

調合したい比率分のジョイントコークを計測しながら出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ

=1 : 3 : 13の比率の色を作る場合 → 0.5g : 1.5g : 6.5g

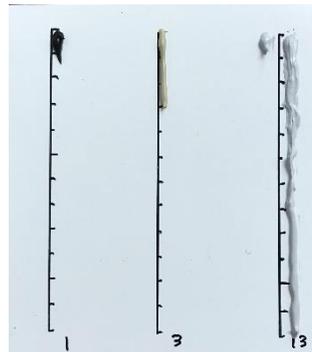


<はかりを使用しない場合>

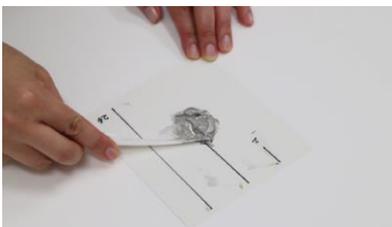
目盛りの入った白い用紙に、調合したい比率分のジョイントコークを出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 3 : 13)

※各色を同じ太さで引くようにしてください。



(4) ヘラを使って用紙上でしっかり混ぜます。



(5) 端材等で色味の確認をして、黒すぎればグレーを足す、白すぎればブラックを足す等の微調整をしてください。

※ブラックは少し加えるだけでも影響が大きいですので慎重に足してください。

※ジョイントコークは乾燥すると色が濃くなりますので、若干明るめに色を調整すると乾燥後の色が合うようになります。



5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<4> 調色・調合方法 -SOLIDO typeF shirasu-

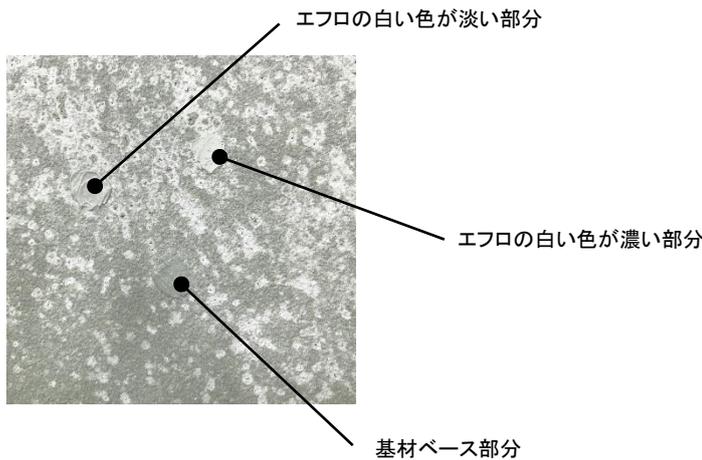
① 調色について

(1) SOLIDO typeF shirasuは、ページュ系～グレー系で基材色にばらつきがあります。

また、同一基材内でもエフロと基材箇所で色味が異なりますので、塗布する箇所に合わせて事前に試し調合を行ってください。



(2) エフロ部分の色に合わせて補修するか、基材ベース部分の色に合わせて補修するかを決めてください。



(3) 塗布する箇所に合わせて、ジョイントコークを混ぜてください。(下表参照)

※あくまでも参考ですので、実際の板に合わせて調整が必要です。

SOLIDO typeF shirasuの参考割合

塗布箇所	参考割合
基材ベース部分	ブラック 1 ジュラク 20 グレー 8
エフロの白い色が淡い部分	ブラック 1 ジュラク 23 グレー 24
エフロの白い色が濃い部分	ジュラク 1 グレー 5

推奨色

基材ベースに似せて仕上げることで補修跡が比較的目立ちにくくなります

5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

<4> 調色・調合方法 -SOLIDO typeF shirasu-

② 調合方法

(1) ジョイントコークのキャップをとります。
(使用後は、キャップをはめて保存します。)



(2) ジョイントコークの先端を切断します。



(3) <はかりを使用する場合>

調合したい比率分のジョイントコークを計測しながら出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ

=1 : 20 : 8の比率の色を作る場合 → 0.5g : 10.0g : 4.0g

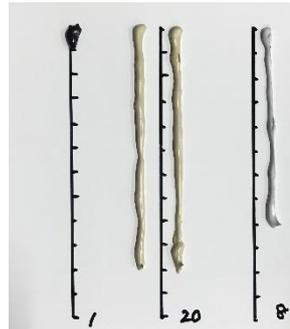


<はかりを使用しない場合>

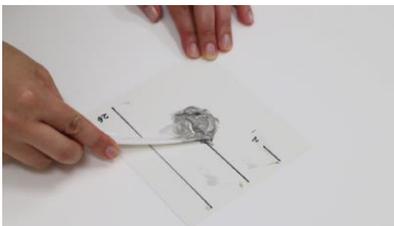
目盛りの入った白い用紙に、調合したい比率分のジョイントコークを出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 20 : 8

※各色を同じ太さで引くようにしてください。



(4) ヘラを使って用紙上でしっかり混ぜます。



(5) 端材等で色味の確認をして、黒すぎればグレーを足す、白すぎればブラックを足す等の微調整をしてください。

※ブラックは少し加えるだけでも影響が大きいですので慎重に足してください。

※ジョイントコークは乾燥すると色が濃くなりますので、若干明るめに色を調整すると乾燥後の色が合うようになります。



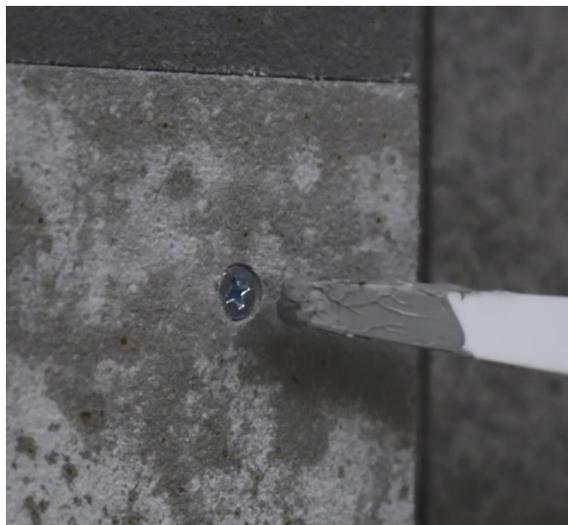
5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 5 > 塗布方法

※写真例：SOLIDO typeF coffee

①色味の確認後、ヘラ等を使って当該部位に混ぜた
ジョイントコークを塗ります。



②ヘラで均します。



③周囲と馴染ませる場合は、ウエス等で軽くたたいて調整します。
乾燥させて完成です。



< 留意事項 >

- ・SOLIDO typeF coffeeは、基材よりもエフロに似せる方が目立ちにくくなります。
- ・SOLIDO typeF shirasuは、エフロよりも基材に似せる方が目立ちにくくなります。
- ・ジョイントコークは乾燥後色が濃い目になりますので、明るめに調合することで目立ちにくくなります。
- ・大きい面積の補修の場合は補修部が目立ちやすくなりますので、部分的に商品の張替えをおすすめします。

5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 6 > 施工例

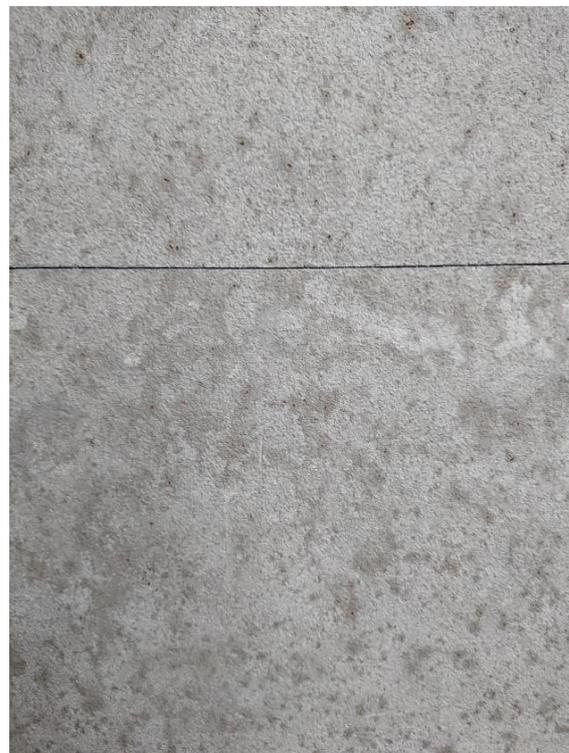
※写真例：SOLIDO typeF coffee

●ビス頭への塗布例

塗布前



塗布後



●合いじゃくり接合部への塗布例

※すき間をふさぐ場合は、事前にパテ等のバックアップ材等を詰め込んでから塗布すると写真（右下）のように仕上がります。

塗布前



塗布後



5. 参考資料

【1】補修・仕上げ方法

< 6 > 施工例

※写真例：SOLIDO typeF coffee

●キズ部への塗布例

塗布前



塗布後



塗布前



塗布後

